



GNOME 2.0 システム管理 (Solaris 版)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817-4029-10
2003 年 12 月

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されず、サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: GNOME 2.0 Desktop for the Solaris Operating Environment System Administration Guide

Part No: 817-3851-10

Revision A



030905@6671



目次

はじめに	7
1 GConf の使用方法	11
GConf の概要	11
GConf リポジトリ	12
GConf 構成ソース	13
GConf スキーマ	14
GConf スキーマ定義ファイル	15
GConf デーモン	15
GConf コマンドラインツール	16
設定値の設定	19
一般的な環境の設定	19
HTTP プロキシの設定	20
印刷マネージャの設定	20
ワークスペース数の設定	20
キーボードアクセシビリティの設定	21
キーボードショートカットの設定	21
グローバルパネルの設定	22
パネルおよびパネルオブジェクトの環境を個別に設定	23
ルック&フィールの設定	27
フォントの設定	27
デスクトップ背景の設定	28
スプラッシュイメージの設定	28
デフォルト設定値の復元	29

2	メニューのカスタマイズ	31
	メニューの概要	31
	ファイル抽象レイヤー	32
	vfolder とメニュー	32
	デスクトップエントリファイル	34
	ディレクトリエントリファイル	35
	メニューの編集	36
	メニューの追加	36
	メニューへの項目の追加	37
	メニューの設定の編集	38
	メニュー項目の編集	38
	メニューからの項目の削除	38
	ユーザーが変更できないメニューの設定	39
3	テーマのインストール	41
	テーマの概要	41
	デスクトップテーマのインストール	42
	ウィンドウフレームテーマのインストール	42
	テーマ用のアイコンのインストール	43
	カスタムデスクトップテーマの作成	44
4	MIME タイプ	45
	MIME タイプの概要	45
	ファイルの MIME タイプの検出	46
	ファイルタイプ検索ツール	46
	MIME タイプレジストリ	48
	MIME タイプのためのアプリケーションの登録	50
	デスクトップ環境へのアプリケーションの追加	52
5	スクリーンセーバーの設定	53
	スクリーンセーバーの概要	53
	スクリーンセーバーの設定	53
	スクリーンセーバーディスプレイの変更	55
6	セッション管理	57
	セッションの概要	57

セッションのデフォルトの設定	58
ログインスクリプト	58
7 パフォーマンスの改善	61
パフォーマンスの改善の概要	61
CPU 使用率の低減	61
CPU リソースをあまり必要としないテーマを使用する	62
メニュー上のアイコンをオフにして CPU 使用率を減らす	63
ワイヤフレームモードをオンにして CPU 使用率を減らす	63
スプラッシュ画面をオフにして CPU 使用率を減らす	63
パネルアニメーションをオフにして CPU 使用率を減らす	64
ファイルマネージャのパフォーマンスの改善	64
mediaLib ライブラリを使用する	67
X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックの低減	68
ネットワークトラフィックの少ないテーマを使用する	68
メニュー上のアイコンをオフにしてネットワークトラフィックを減らす	68
ワイヤフレームモードをオンにしてネットワークトラフィックを減らす	69
色の使用を減らして表示品質を改善	69
websafe カラーパレットを使用するテーマを使用する	70
メニュー上のアイコンをオフにして色の使用を減らす	70
スプラッシュ画面をオフにして色の使用を減らす	70
デスクトップ背景に単一色を使用して色の使用を減らす	70
A 隠しディレクトリ	73
用語集	77
索引	81

はじめに

このマニュアル『GNOME 2.0 システム管理 (Solaris 版)』は、Solaris™ 8 および Solaris 9 オペレーティング環境で GNOME 2.0 デスクトップを実行するシステムの管理方法について説明しています。

対象読者

このマニュアルは、GNOME 2.0 デスクトップを実行する 1 つまたは複数のシステムの管理者を対象にしています。GNOME デスクトップの使用方法については、『GNOME 2.0 ユーザーズガイド (Solaris 版)』を参照してください。

このマニュアルを読む前に

このマニュアルを読むには、次のことに関する知識があることが前提となります。

- UNIX システム管理
- XML (Extensible Markup Language) ファイルの構造
- システム管理を行う上での XML ファイルの使用方法

内容の紹介

このマニュアルは、次のように構成されています。

- 第1章は、GConfを使用したユーザー設定の管理方法について説明しています。
- 第2章は、メニューの実装およびメニューのカスタマイズ方法について説明しています。
- 第3章は、GNOME デスクトップで利用可能なテーマの種類、テーマのインストール方法、およびカスタムテーマの作成方法について説明しています。
- 第4章は、アプリケーションがどのように MIME タイプを検出するかを説明しています。また、MIME タイプの登録方法、および GNOME デスクトップへのアプリケーションの追加方法についても説明しています。
- 第5章は、スクリーンセーバーを設定する方法について説明しています。この章では、スクリーンセーバーに利用可能なディスプレイの変更方法についても説明します。
- 第6章は、セッション管理の概要と、セッションのデフォルトを設定する方法について説明しています。また、セッションとログインスクリプトに関する情報も提供します。
- 第7章は、GNOME デスクトップのパフォーマンスを改善する方法について説明しています。
- 付録 A は、GNOME デスクトップがユーザーのホームディレクトリに追加する隠しディレクトリについて説明しています。
- 用語集は、このマニュアルで使用される用語の定義を説明しています。

関連マニュアル

次に、このマニュアルに関連するマニュアルを示します。

- 『GNOME 2.0 Desktop for the Solaris Operating Environment Accessibility Guide』
- 『GNOME 2.0 インストールガイド (Solaris 版)』
- 『GNOME 2.0 ご使用にあたって (Solaris 版)』
- 『GNOME 2.0 問題の解決方法 (Solaris 版)』
- 『GNOME 2.0 ユーザーズガイド (Solaris 版)』

Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、http://docs.sun.com です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep '^#define \</code> <code>XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

第 1 章

GConf の使用方法

この章では、GConf を使用してユーザーの設定を管理する方法について説明します。

- 11 ページの「GConf の概要」
- 12 ページの「GConf リポジトリ」
- 15 ページの「GConf デーモン」
- 16 ページの「GConf コマンドラインツール」
- 19 ページの「設定値の設定」
- 19 ページの「一般的な環境の設定」
- 27 ページの「ルック&フィールの設定」
- 29 ページの「デフォルト設定値の復元」

GConf の概要

GConf は、デスクトップ環境におけるユーザーの設定の管理を簡素化します。システム管理者は、GConf を使用して次のことが可能になります。

- すべてのユーザーの特定の設定に必須値を設定する。システム管理者はこの方法で、ユーザーが特定の設定を更新できるかどうかを制御できます
- すべてのユーザーの特定の設定にデフォルト値を設定する
- 設定の定義ファイルで指定されている設定の推奨値を使用する
- 各設定に関するマニュアルを読む

設定値がローカルに、またはネットワークを介して変更されると、GConf はアプリケーションに設定値の変更を通知します。このため、設定を変更すると、その設定を使用するすべてのアプリケーションが直ちに更新されます。

GConf には、次のコンポーネントがあります。

- ユーザー設定のリポジトリ
- gconfd-2 デーモン

- gconftool-2 コマンドラインツール

GConf リポジトリ

GConf リポジトリ内の各設定は、キーと値のペアで構成されます。GConf 設定キーは、アプリケーション設定に対応するリポジトリ内の要素です。たとえば、`/apps/gnome-session/options/show_splash_screen` 設定キーは、セッション設定ツールの「ログイン時にスプラッシュ画面を表示する」オプションに対応します。GNOME デスクトップのユーザーインターフェイスには、GConf リポジトリ内のすべての設定キーが含まれるわけではありません。たとえば、セッション設定ツールには、`/apps/gnome-session/options/splash_screen_text` キーに対応するオプションがありません。

リポジトリは、単純な階層のファイルシステムとして構成されています。リポジトリには、次のものが含まれます。

- GConf リポジトリを使用するアプリケーションに対応するディレクトリ。たとえば、このファイルシステムに、ディレクトリ `/apps/metacity` が含まれます。
- 設定のカテゴリに対応するサブディレクトリ。たとえば、このファイルシステムに、ディレクトリ `/apps/metacity/general` が含まれます。
- ディレクトリ内の設定キーの一覧、およびそのキーに関する情報を含む特殊ファイル。たとえば、HTTP プロキシ設定に関連するキーについての情報を持つファイルは、ディレクトリ `/system/http_proxy` にあります。
- すべての設定キーを記述するファイルを含む `/schemas` ディレクトリ。

通常、設定キーは、文字列、整数、または文字列と整数のリストなどの単純な値を持ちます。リポジトリ内の設定キーの形式は、リポジトリの読み取りに使用されるバックエンドモジュールに依存します。以下は、リポジトリの読み取りに XML (Extensible Markup Language) が使用される場合の `/desktop/gnome/interface/font_name` 設定キーの例です。

```
<entry name="font_name" mtime="1038323555" muser="user123" type="string">
<stringvalue>avantgarde 10</stringvalue></entry>
```

注 - このマニュアルでは、設定キーを示すときに、キーの名前とそのパスを示します。たとえば、`/desktop/gnome/interface` サブディレクトリ内の `font_name` 設定キーは、`/desktop/gnome/interface/font_name` と示されます。

GConf 構成ソース

GConf リポジトリは、「構成ソース」と呼ばれる一連の保存場所を含んでいます。構成ソースは、「GConf パスファイル」に記述されます。GConf パスファイルの場所は、`/etc/gconf/version-number/path` です。各ユーザーは、パスファイルを持っています。パスファイル内の各行は、次の情報を指定します。

- リポジトリの読み取りに使用するバックエンドモジュール
- リポジトリのアクセス権
- リポジトリの場所

デフォルトでは、GConf パスファイルの内容は以下のようになります。

```
xml:readonly:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory
include "$(HOME)/.gconf.path"
xml:readwrite:$(HOME)/.gconf
xml:readonly:/etc/gconf/gconf.xml.defaults
```

GConf が設定値を検索する場合、GConf は、パスファイル内で指定された順に構成ソースを読みます。以下の表は、パスファイル内の構成ソースです。

構成ソース	説明
必須	この構成ソースのアクセス権は、読み取り専用を設定されません。ユーザーは、このソースの値を上書きすることができません。したがって、そのソースの設定は必須です
ユーザー	この構成ソースは、ユーザーのホームディレクトリ内の <code>.gconf</code> ディレクトリに格納されます。ユーザーが環境を設定すると、新しい設定情報がこの場所に追加されます
デフォルト	この構成ソースには、デフォルトの設定が含まれています

パスファイル内の構成ソースの順序では、必須の設定がユーザーの設定よりも優先されます。また、デフォルト設定よりもユーザーの設定が優先されます。つまり、GConf は、次の優先順位で設定を適用します。

1. 必須の設定
2. ユーザー指定の設定
3. デフォルトの設定

ユーザーは、GConf パスファイル内の `include` 指示を使って、別の構成ソースを使用できます。別の構成ソースを使用するには、ユーザーは、構成ソースの場所を指定する必要があります。ユーザーは、構成ソースの場所をホームディレクトリ内の `.gconf.path` というファイルに指定します。

GConf スキーマ

「GConf スキーマ」は、「GConf スキーマキー」と「GConf スキーマオブジェクト」の総称です。以下の表は、スキーマキー、スキーマオブジェクト、およびこれらの項目と設定キーとの関連性について説明しています。

項目	説明
設定キー	アプリケーション設定に対応する GConf リポジトリ内の要素
スキーマキー	設定キー用のスキーマオブジェクトを格納するキー
スキーマオブジェクト	以下のような設定キー用の情報を含む構成ソース内の要素 <ul style="list-style-type: none">■ 設定キーを使用するアプリケーションの名前■ 設定キーに必要な値の型 (たとえば、整数、int、bool など)■ 設定キーのデフォルト値■ 設定キーについての簡単な記述

以下の表は、設定キー、スキーマキー、およびスキーマオブジェクトの例を示しています。

項目	例
設定キー	/desktop/gnome/interface/font_name
スキーマキー	/schemas/desktop/gnome/interface/font_name
スキーマオブジェクト	<pre><schema> <applyto>/desktop/gnome/interface/font_name</applyto> <key>/schemas/desktop/gnome/interface/font_name</key> <owner>gnome</owner> <type>string</type> <default>Sans 10</default> <locale name="C"> <short>Default font</short> <long>Name of the default font used by gtk+.</long> </locale> </schema></pre>

設定キーにスキーマキーを関連付けることができます。たとえば、`/desktop/gnome/interface/font_name` キーは次のスキーマキーを含んでいます。

```
<entry name="font_name" mtime="1034873859"
schema="/schemas/desktop/gnome/interface/font_name"/>
```

設定キーにスキーマキーを関連付けると、設定は、そのスキーマキーのスキーマオブジェクト内で指定されている推奨値を使用します。推奨値は、スキーマオブジェクトの <default> 要素に含まれています。デフォルトでは、デフォルト構成ソース内のすべての設定キーが、スキーマキーと関連付けられます。

通常、スキーマはデフォルト構成ソースに格納されます。

GConf スキーマ定義ファイル

スキーマは、「スキーマ定義ファイル」から生成されます。スキーマ定義ファイルは、特定のアプリケーションにおけるすべてのキーの特性を定義します。スキーマ定義ファイルには、`.schemas` 拡張子が付きます。

スキーマ定義ファイルは、`/etc/gconf/schemas` ディレクトリに含まれています。スキーマ定義ファイルを使用して、新しい構成ソースを作成できます。

いくつかのスキーマ定義ファイルは、GNOME デスクトップのユーザーインターフェイスの一部と緊密に対応しています。たとえば、`system_http_proxy.schemas` は、ネットワークプロキシ設定ツールに対応します。ほかのスキーマ定義ファイルは、GNOME デスクトップのユーザーインターフェイスにはない設定キーを含んでいます。たとえば、`/apps/gnome-session/options/splash_screen_text` キーは、ユーザーインターフェイスにはありません。

GNOME デスクトップのユーザーインターフェイスのいくつかは、複数のスキーマ定義ファイルの設定キーを表す設定を含んでいます。たとえば、キーボードショートカット設定ツールは、`panel-global-config.schemas` および `metacity.schemas` ファイルのキーを表す設定を含んでいます。

GConf デーモン

GConf デーモンは、`gconfd-2` です。GConf デーモンは、設定の値が変更されると、アプリケーションに通知します。たとえば、メニューとツールバー設定ツールでツールバーのアイコンのみを表示するように選択するとします。設定ツールでこのオプションを選択すると、直ちに、開いているすべてのアプリケーションのツールバーが更新されます。GConf デーモンは、ローカルでも、ネットワークを介してでも動作することができます。

GConf デーモンのインスタンスは、各ユーザーごとに起動されます。GConf デーモンは、認証やデータ機密保護などの複雑な問題を処理する必要がありません。GConf デーモンは、起動するときにGConf パスファイルを読み取ります。GConf デーモンは、アプリケーションと構成ソース間のすべてのアクセスを管理します。

アプリケーションが設定キーの値を要求すると、デーモンは次のようにして構成ソースを検索します。

1. パスファイルに指定された順に、各構成ソース内の設定キーの値を検索します。値が見つかると、その値を返します。
2. 値が見つからない場合は、パスファイルに指定された順に、各構成ソース内の設定キーに対応するスキーマキーを検索します。
3. スキーマキーが見つかると、スキーマキーの値を調べます。
4. スキーマキーの値がスキーマオブジェクトの場合、そのスキーマオブジェクトの <default> 要素内の推奨値を返します。

GConf デーモンは、設定キーの値をキャッシュに入れます。すべてのアプリケーションがこのキャッシュを使用するため、アプリケーションが構成ソースにアクセスするのは一度だけです。

GConf デーモンを終了するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --shutdown
```

GConf コマンドラインツール

GConf は、コマンドラインツールの `gconftool-2` を含んでいます。`gconftool-2` コマンドを使用して、次の作業を実行できます。

- キーの値を設定する
- キーの値を表示する
- アプリケーションをインストールするときに、スキーマ定義ファイルからスキーマをインストールする

たとえば、次のコマンドを使用して `/desktop/gnome` ディレクトリおよびサブディレクトリ内のすべてのキー値を表示することができます。

```
# gconftool-2 --recursive-list /desktop/gnome
```

表 1-1 は、`gconftool-2` コマンドに使用できるオプションを示しています。

表 1-1 gconftool-2 コマンドオプション

オプション	機能
<code>--all-dirs</code>	指定したディレクトリ内のすべてのサブディレクトリをリストする
<code>--all-entries</code>	指定したディレクトリ内のすべてのキー値を表示する

表 1-1 gconftool-2 コマンドオプション (続き)

オプション	機能
<code>--config-source=configuration_source</code>	<code>--direct</code> オプションと共に使用して、使用する構成ソースを指定する。このオプションで構成ソースを指定しない場合、パスファイル内のすべての構成ソースでコマンドが実行される
<code>--direct</code>	<code>--config-source</code> オプションと共に使用して、構成ソースに直接アクセスする。このオプションを使用する場合、GConf はサーバーを省略する。このオプションを使用する前に、GConf デーモンの <code>gconfd-2</code> が実行されていないことを確認する必要がある
<code>--get</code>	指定した設定キーの値を表示する。また、指定したスキーマキーのスキーマオブジェクト内の要素の値も表示する
<code>--help</code>	<code>gconftool-2</code> コマンドに関するヘルプメッセージと、 <code>gconftool-2</code> コマンドに使用できるオプションを表示する
<code>--long-desc=description</code>	<code>--set-schema</code> オプションと共に使用して、スキーマキーの長い説明を指定する
<code>--makefile-install-rule</code>	スキーマ定義ファイルをアプリケーションにインストールする
<code>--owner=owner</code>	<code>--set-schema</code> オプションと共に使用して、スキーマキーの所有者を指定する
<code>--recursive-list</code>	指定したディレクトリ内のすべてのサブディレクトリにあるすべての設定キーの値を表示する
<code>--recursive-unset</code>	ディレクトリ内のすべてのサブディレクトリで、ユーザー設定からデフォルト構成ソースの設定までを含む、すべての設定キーの値をリセットする
<code>--set</code>	設定キーの値を設定し、その値をユーザー構成ソースに書き込む。 <code>--type</code> オプションは <code>--set</code> オプションと共に使用して、設定する値のデータ型を指定する。たとえば、以下のコマンドは、ユーザー構成ソースの <code>/apps/gnome-terminal/profiles/Default/background_color</code> キーの値を設定する <pre># gconftool-2 --set "/apps/gnome-terminal/profiles/Default/background_color" --type string "#000000"</pre> <code>--direct</code> オプションと <code>--config-source</code> オプションを <code>--set</code> オプションと共に使用して、値を別の構成ソースに書き込むこともできる

表 1-1 gconftool-2 コマンドオプション (続き)

オプション	機能
<code>--set-schema</code>	<p>スキーマキーの属性の値を設定し、その値をデフォルト構成ソースに書き込む</p> <p>次のオプションを <code>--set-schema</code> オプションと共に使用して、更新する属性を指定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>--type</code> ■ <code>--short-desc</code> ■ <code>--long-desc</code> ■ <code>--owner</code> <p>次のコマンドは <code>/apps/gnome-terminal/profiles/Default/background_color</code> キーに対して、スキーマキーの短い説明を設定する</p> <pre># gconftool-2 --set-schema "/schemas/apps/gnome-terminal/profiles/Default/background_color" --short-desc "Default background color of terminal"</pre>
<code>--short-desc= description</code>	<p><code>--set-schema</code> オプションと共に使用して、スキーマキーの短い説明を指定する</p>
<code>--shutdown</code>	<p>GConf デーモンを終了する</p>
<code>--type= data_type</code>	<p>設定キーの値を設定する場合にデータ型を指定する。スキーマキーの属性値を設定する場合にもこのオプションを使用できる。以下のような有効なデータ型がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>bool</code> ■ <code>float</code> ■ <code>int</code> ■ <code>list</code> ■ <code>pair</code> ■ <code>string</code>
<code>--unset</code>	<p>ユーザー設定からデフォルト構成ソースの設定までを含む、設定キーの値をリセットする</p>
<code>--usage</code>	<p><code>gconftool-2</code> コマンドに関する簡単なヘルプメッセージと、<code>gconftool-2</code> コマンドに使用できるオプションを表示する</p>

設定値の設定

設定キーに対して、必須値またはデフォルト値を設定できます。ユーザーの必須設定値またはデフォルト設定値を変更する前に、GConf デモンがどのユーザーに対しても実行されていないことを確認する必要があります。また、すべてのユーザーがログアウトしていることを確認してから、ユーザーの設定値を変更してください。

設定キーの必須値またはデフォルト値を設定するには、`gconftool-2` コマンドを次のように使用します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source configuration_source --type
data_type --set preference_key value
```

たとえば、`wwwproxy.xyz.com` を必須の HTTP プロキシホストとして設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/system/http_proxy/host wwwproxy.xyz.com
```

ユーザーは、この設定値を変更できません。

`gconftool-2` コマンドを使用して、デフォルト値を設定することもできます。たとえば、ワークスペースのデフォルト数を 5 に設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type int --set
/apps/metacity/general/num_workspaces 5
```

ユーザーは、この設定値を変更できます。



注意 - ユーザーの必須設定値またはデフォルト設定値を変更する前に、すべてのユーザーがログアウトしていることを確認してください。

一般的な環境の設定

この節では、必須値またはデフォルト値を一般的な設定に割り当てる方法を説明します。

HTTP プロキシの設定

HTTP プロキシを設定するには、`/system/http_proxy/` の設定キーの値を変更します。たとえば、HTTP プロキシホストに必須値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/system/http_proxy/host proxy_name
```

HTTP プロキシホストにデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type string --set
/system/http_proxy/host proxy_name
```

ほかの HTTP プロキシ関連の環境を設定することもできます。ほかの HTTP プロキシ設定に関する情報については、`system_http_proxy.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

印刷マネージャの設定

印刷マネージャを設定するには、`/apps/gnome-print-manager` の設定キーの値を変更します。たとえば、ユーザーがほかのユーザーの印刷ジョブを表示しないように設定するには、必須値を次のように設定します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type bool --set
/apps/gnome-print-manager/show_all_jobs false
```

この設定にデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type bool --set
/apps/gnome-print-manager/show_all_jobs false
```

ほかの印刷マネージャ環境を設定することもできます。ほかの印刷マネージャ設定に関する情報については、`gnome-print-manager.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

ワークスペース数の設定

ワークスペースの必須の数を設定するには、次のコマンドを使用します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type int --set
/apps/metacity/general/num_workspaces integer
```

ワークスペースのデフォルトの数を設定するには、次のコマンドを使用します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type int --set
/apps/metacity/general/num_workspaces integer
```

ほかのウィンドウマネージャの環境を設定することもできます。ほかのウィンドウマネージャの設定に関する情報については、metacity.schemas スキーマ定義ファイルを参照してください。

キーボードアクセシビリティの設定

キーボードアクセシビリティを設定するには、`/desktop/gnome/accessibility/keyboard` の設定キーの値を変更します。たとえば、キーボードアクセシビリティ機能が有効になるように必須値を設定したい場合は、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type bool --set
/desktop/gnome/accessibility/keyboard/enable true
```

この設定にデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type bool --set
desktop/gnome/accessibility/keyboard/enable false
```

ほかのキーボードアクセシビリティ環境を設定することもできます。ほかのキーボードアクセシビリティ設定に関する情報については、`desktop_gnome_accessibility_keyboard.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

キーボードショートカットの設定

キーボードショートカットを設定するには、2つの場所にある設定キーの値を変更します。以下の表は、変更する設定キーの場所と、その場所に対応するユーザーインターフェイス部分を示しています。

GConf の場所	ユーザーインターフェイスコンポーネント
<code>/apps/panel/global</code>	キーボードショートカット設定ツールの「デスクトップ」セクション

GConf の場所	ユーザーインターフェイスコンポーネント
/apps/metacity/general	キーボードショートカット設定ツールの「ウィンドウ管理」セクション

たとえば、「プログラムを実行」ダイアログを開くときに、ユーザーが Alt + F3 キーボードショートカットのみを使用するように設定したい場合があります。この必須値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/apps/panel/global/run_key '<Alt>F3'
```

ウィンドウを最大化するときに、デフォルトでユーザーが Alt + F11 を使用するように設定したい場合があります。このデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type string --set
/apps/metacity/window_keybindings/maximize '<Alt>F11'
```

ほかのキーボードショートカット環境を設定することもできます。ほかのキーボードショートカット設定に関する情報については、panel-global-config.schemas および metacity.schemas スキーマ定義ファイルを参照してください。

グローバルパネルの設定

パネルのグローバル環境を設定するには /apps/panel/global の設定キーの値を変更します。たとえば、ユーザーがパネルアニメーションを使用しないように設定する場合は、必須値を次のように設定します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type bool --set
/apps/panel/global/enable_animations false
```

この設定にデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type bool --set
/apps/panel/global/enable_animations false
```

ほかのグローバルパネル環境を設定することもできます。ほかのグローバルパネル設定に関する情報については、panel-global-config.schemas スキーマ定義ファイルを参照してください。

パネルおよびパネルオブジェクトの環境を個別に設定

`panel-per-panel-config.schemas` スキーマ定義ファイルは、デスクトップ環境のパネルについて次のような詳細を指定します。

- パネルの数
- パネルのタイプ
- パネルのプロパティ
- パネルの内容

パネルおよびパネルオブジェクトを個別に設定するのは、複雑な作業になります。パネルおよびパネルオブジェクトを個別に設定するには、まず、`panel-per-panel-config.schemas` スキーマ定義ファイルの構造を理解する必要があります。`panel-per-panel-config.schemas` スキーマ定義ファイルの詳細については、次の節を参照してください。

パネルおよびパネルオブジェクトの環境を個別に設定するには、構成ソース内の多数の設定値を設定する必要があります。多数の設定値を設定する簡単な方法として、スクリプトの使用があります。パネルおよびパネル上のオブジェクトの環境を設定するサンプルスクリプトについては、25 ページの「パネル設定を個別に設定するためのサンプルスクリプト」を参照してください。

個々のパネルおよびパネルオブジェクトのスキーマ定義ファイル

スキーマ定義ファイルの `panel-per-panel-config.schemas` には、小、中、および大画面のためのパネルおよびパネルコンテンツを指定するセクションがあります。このマニュアルの発行時点では、小画面および大画面用のセクションは機能していません。パネルおよびパネルオブジェクトの設定キーについて学習するには、中画面のセクションのみを参照してください。

ファイル `panel-per-panel-config.schemas` の中画面のセクションは、次のように構成されています。

1. デスクトップ環境のパネル、アプレット、および他のパネルオブジェクトの一般的な構造を指定する設定キー。次のキーは、デスクトップ環境に現れるパネル、アプレット、および他のパネルオブジェクトの数を指定します。
 - `/apps/panel/default_profiles/medium/general/panel_id_list`
 - `/apps/panel/default_profiles/medium/general/applet_id_list`
 - `/apps/panel/default_profiles/medium/general/object_id_list`

これらのキーは、各パネル、アプレット、およびパネルオブジェクトに識別子も割り当てます。たとえば、`panel-per-panel-config.schemas` からの次の抜粋は、2つのパネルがデスクトップ環境に表示されることを指定します。

```
<key>/schemas/apps/panel/default_profiles/medium/  
general/panel_id_list</key>
```

```
.  
. .
```

```
<default>[00000001,00000002]</default>
```

panel-per-panel-config.schemas 内の識別子 00000001 はボトムエッジパネルを識別し、識別子 00000002 はメニューパネルを識別します。

2. パネルのプロパティを指定する設定キー。パネル設定キーは、次のように構成されています。

```
/apps/panel/default_profiles/medium/panels/panel_number/panel_property_key
```

たとえば、

```
/apps/panel/default_profiles/medium/panels/00000001/screen_edge
```

は、ボトムエッジパネルが表示されるディスプレイのエッジを指定します。

ボトムエッジパネルのプロパティを指定するキーは、最初にリストされます。メニューパネルのプロパティを指定するキーは、panel-per-panel-config.schemas の medium セクションの末尾にリストされます。

3. パネルオブジェクト、パネルオブジェクトプロパティ、およびオブジェクトが存在するパネルをリストする設定キー。たとえば、panel-per-panel-config.schemas からの次の抜粋では、オブジェクト 00000001 を指定しています。

```
<key>/schemas/apps/panel/default_profiles/medium/  
objects/00000001/object_type</key>
```

```
.  
. .
```

```
<default>launcher-object</default>
```

```
.  
. .
```

```
<key>/schemas/apps/panel/default_profiles/medium/  
objects/00000001/launcher_location</key>
```

```
.  
. .
```

```
<default>applications:///nautilus.desktop</default>
```

```
.  
. .
```

```
<key>/schemas/apps/panel/default_profiles/medium/  
objects/00000001/panel_id</key>
```



```
.  
. .  
. .  
<default>00000002</default>
```

オブジェクトは、Nautilus ファイルマネージャを起動するランチャーです。このランチャーは、メニューパネルに含まれています。

4. アプレット、アプレット設定、およびアプレットが存在するパネルをリストする設定キー。たとえば、`panel-per-panel-config.schemas` からの次の抜粋では、アプレット 00000001 を指定しています。

```
<key>/schemas/apps/panel/default_profiles/medium/  
applets/00000001/object_type</key>
```

```
.  
. .  
. .  
<default>bonobo-applet</default>
```

```
.  
. .  
. .  
<key>/schemas/apps/panel/default_profiles/medium/  
applets/00000001/panel_id</key>
```

```
.  
. .  
. .  
<default>00000001</default>
```

```
.  
. .  
. .  
<key>/schemas/apps/panel/default_profiles/medium/  
applets/00000001/bonobo_iid</key>
```

```
.  
. .  
. .  
<default>OAFIID:GNOME_TasklistApplet</default>
```

アプレットは、ウィンドウリストアプレットです。このアプレットは、ボトムエッジパネルにあります。

パネル設定を個別に設定するためのサンプルスクリプト

この節では、次のような主要な特性を持つパネルに対して、環境を設定するサンプルスクリプトについて説明します。

- パネルはエッジパネルであり、画面のボトムエッジに存在する
- パネルにファイルマネージャランチャーと端末ランチャーが含まれている
- パネルにウィンドウリストアプレットが含まれている

このサンプルスクリプトでは、ほかのマイナーな設定も設定しています。設定はすべて、必須値ではなくデフォルト値を持っています。

サンプルスクリプトは、次のようになります。

使用法: set_key <タイプ> <キー> <値> <追加オプション (必要な場合)>

```
function set_key()
{
    TYPE="$1"
    shift
    KEY="$1"
    shift
    VALUE="$1"
    shift
    OTHER_ARGS="$*"
    gconftool-2 --direct --config-source xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults
    --owner=panel $OTHER_ARGS --type "$TYPE" --set "$KEY" "$VALUE"
}
```

パネルの数、ランチャーの数、およびアプレットの数を定義する

```
set_key list /apps/panel/default_profiles/medium/general
/panel_id_list [00000001] --list-type string
set_key list /apps/panel/default_profiles/medium/general
/object_id_list [00000001,00000002] --list-type string
set_key list /apps/panel/default_profiles/medium/general
/applet_id_list [00000001] --list-type string
```

パネルの特性を定義する

```
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/panels
/00000001/panel_type edge-panel
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/panels
/00000001/panel_size panel-size-x-small
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/panels
/00000001/screen_edge panel-edge-bottom
set_key bool /apps/panel/default_profiles/medium/panels
/00000001/hide_buttons_enabled false
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/panels
/00000001/panel_background_type no-background
```

最初のランチャーを定義する

```
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/objects
/00000001/object_type launcher-object
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/objects
/00000001/launcher_location 'applications:///nautilus.desktop'
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/objects
/00000001/panel_id 00000001
set_key int /apps/panel/default_profiles/medium/objects
```

```
/00000001/position 20
```

```
# 2 番目のランチャーを定義する
```

```
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/objects  
/00000002/object_type launcher-object  
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/objects  
/00000002/launcher_location 'applications:///System/gnome-terminal.desktop'  
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/objects  
/00000002/panel_id 00000001  
set_key int /apps/panel/default_profiles/medium/objects  
/00000002/position 25
```

```
# アプレットを定義する
```

```
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/applets  
/00000001/object_type bonobo-applet  
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/applets  
/00000001/bonobo_iid OAFIID:GNOME_TasklistApplet  
set_key string /apps/panel/default_profiles/medium/applets  
/00000001/panel_id 00000001  
set_key int /apps/panel/default_profiles/medium/applets  
/00000001/position 25
```

ルック&フィールの設定

この節では、ルック&フィールの設定に必須値またはデフォルト値を割り当てる方法を説明します。

フォントの設定

フォントを設定するには、2つの設定キーの値を変更します。以下の表は、変更するキーと、そのキーに対応するユーザーインターフェイス部分を示しています。

GConf の場所	ユーザーインターフェイスコンポーネント
/desktop/gnome/interface/font_name	フォント設定ツールの「アプリケーション用フォント」セクション
/apps/nautilus/preferences/desktop_font	フォント設定ツールの「デスクトップ用フォント」セクション

たとえば、Sans 12 を必須アプリケーション用フォントとして設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/desktop/gnome/interface/font_name "Sans 12"
```

palatino 12 をデフォルトのデスクトップオブジェクト用フォントとして設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type string --set
/apps/nautilus/preferences/desktop_font "palatino 12"
```

デスクトップ背景の設定

デスクトップ背景を設定するには、`/desktop/gnome/background` の設定キーの値を変更します。たとえば、デスクトップ背景に必須イメージを設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/desktop/gnome/background/picture_filename filename.png
```

この設定にデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type string --set
/desktop/gnome/background/picture_filename filename.png
```

ほかのデスクトップ背景を設定することもできます。ほかのデスクトップ背景設定に関する情報については、`desktop_gnome_background.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

スプラッシュイメージの設定

スプラッシュイメージを設定するには、`/apps/gnome-session/options/` の設定キーの値を変更します。たとえば、スプラッシュイメージを表示しないように設定するには、必須値を次のように設定します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type bool --set
/apps/gnome-session/options/show_splash_screen false
```

この設定にデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type bool --set
/apps/gnome-session/options/show_splash_screen false
```

ほかのスプラッシュイメージを設定することもできます。ほかのスプラッシュイメージ設定に関する情報については、`gnome-session.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

デフォルト設定値の復元

ユーザーのデフォルト設定値を復元するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source user_configuration_source --recursive-unset
```

user-configuration-source は、ユーザーのホームディレクトリにある `.gconf` ディレクトリ内の構成ソースに置き換えます。

このコマンドは、すべてのサブディレクトリで、ユーザー設定からデフォルト構成ソースの設定までを含むすべての設定キーの値をリセットします。

第 2 章

メニューのカスタマイズ

この章では、GNOME デスクトップがどのようにメニューを実装するか、また管理者はどのようにメニューをカスタマイズできるか説明します。

- 31 ページの「メニューの概要」
- 32 ページの「ファイル抽象レイヤー」
- 32 ページの「vfolder とメニュー」
- 34 ページの「デスクトップエントリファイル」
- 35 ページの「ディレクトリエントリファイル」
- 36 ページの「メニューの編集」
- 39 ページの「ユーザーが変更できないメニューの設定」

メニューの概要

GNOME デスクトップがメニューをどのように実装するかにより、次のことが可能になります。

- 簡単にメニュー階層をカスタマイズできる。メニュー階層は、ファイルシステムの階層構造に基づいていません。メニュー階層は、少数のファイルを編集するだけでカスタマイズできます。アプリケーションを変更したり、ファイルを移動する必要はありません。
- 簡単にアプリケーションをインストールできる。アプリケーションをインストールするときに、メニュー階層に関する情報をアプリケーションに提供する必要はありません。
- ユーザーがメニューを変更できないように設定する。

GNOME デスクトップ上のメニューは、次のコンポーネントを使用します。

- ファイル抽象レイヤー
- Vfolder
- デスクトップエントリファイル

- ディレクトリエントリファイル

ファイル抽象レイヤー

gnome-vfs ファイル抽象レイヤーは、アプリケーションがファイルと相互に作用するための単純で一般的な方法を提供します。また、ファイル抽象レイヤーは、特定のメニュー設定ファイルに対応付ける URI (*Uniform Resource Identifier*) ロケーションを提供します。すべてのユーザー用にメニューまたはメニュー項目を追加するには、そのメニューまたはメニュー項目を URI ロケーションの 1 つに追加する必要があります。項目を追加できるメニューと、そのメニューに対応する URI ロケーションは表 2-1 に示しています。

表 2-1 メニューと URI ロケーション

メニュー	URI ロケーション
すべてのユーザーの「アプリケーション」メニュー	applications-all-users:///
すべてのユーザーの「デスクトップ設定」メニュー	preferences-all-users:///

vfolder とメニュー

一般的に、「vfolder」は、システム上の物理的な場所 (1 箇所または複数) に存在する項目の仮想表現になります。たとえば、vfolder が、いくつかのディレクトリの内容を表す場合があります。また vfolder は、1 つまたは複数の物理的な場所の抽象概念になります。GNOME デスクトップのメニューの場合、vfolder は、物理的に複数のディレクトリに置かれている項目のメニュー上の表現になります。

「vfolder 情報ファイル」は、vfolder を説明する XML ファイルです。vfolder 情報ファイルは、メニューの構造を指定します。vfolder 情報ファイルは、メニューの名前と、メニューに表示されるアプリケーションの順序を指定します。vfolder 情報ファイルには、.vfolder-info ファイル拡張子が付きます。

以下に vfolder 情報ファイルの抜粋を示します。

```
<?xml version="1.0"?>
<VFolderInfo>
.
.
```



```

.<Folder>
  <Name>Applications</Name>
  <Desktop>Applications.directory</Desktop>
  <Folder>
    <Name>Accessories</Name>
    <DontShowIfEmpty/>
    <Desktop>Accessories.directory</Desktop>
    <Query>
      <And>
        <Keyword>Application</Keyword>
        <Keyword>Utility</Keyword>
      </And>
    </Query>
  </Folder>
.</Folder>
.</VFolderInfo>

```

表 2-2 は、vfolder 情報ファイル内の要素を示しています。

表 2-2 vfolder 情報ファイルの要素

要素	説明
<Folder>	メニューの名前、内容、構造を定義する要素が含まれる
<Name>	メニューの名前
<Desktop>	メニューの名前、コメント、アイコンを指定するディレクトリエントリファイルの名前
<Query>	デスクトップエントリファイルに対するクエリー。クエリー要件と一致するデスクトップエントリファイルと、メニュー項目がメニュー上に表示される 上記抜粋内のクエリーでは、Categories キー内にキーワード Application と Utility を含むデスクトップエントリファイルが検索される。一致するデスクトップエントリファイルが「アプリケーション」メニューに表示される この要素は任意
<DontShowIfEmpty/>	この要素がある場合は、項目を何も含まないメニューは表示されない この要素は任意

デスクトップエントリーファイル

「デスクトップエントリーファイル」は、メニュー内の項目に関する情報を提供するデータファイルです。デスクトップエントリーファイルは、名前、実行するコマンド、アイコンなどの項目の詳細を指定します。また、デスクトップエントリーファイルには、メニュー階層内での項目の位置を決定するキーワードが含まれています。デスクトップエントリーファイルには、`.desktop` ファイル拡張子が付きます。

以下は、デスクトップエントリーファイルのサンプルです。

```
[Desktop Entry]
Encoding=UTF-8
Name=Calculator
Comment=Perform simple calculations
Exec=gnome-calculator
Icon=gnome-calc3.png
Terminal=false
Type=Application
X-GNOME-DocPath=gnome-calculator/gnome-calculator.xml
Categories=GNOME;Application;Utility;
```

表 2-3 は、デスクトップエントリーファイルで最も重要なキーを説明しています。

表 2-3 デスクトップエントリーキー

デスクトップエントリーキー	説明
Encoding	デスクトップエントリーファイルのエンコーディングを指定する
Name	項目の名前を指定する。この名前は、メニュー上の項目として表示される
Comment	項目の短い説明を指定する。コメントは、メニュー上のメニュー項目を指したときにツールチップとして表示される
Exec	メニューから項目を選択したときに実行されるコマンドを指定する
Icon	項目を表すアイコンのファイル名を指定する。ファイル名へのパス、あるいはファイル拡張子は指定しない
Terminal	Exec キーで指定したコマンドを端末で実行するかどうかを指定する。値が true の場合は、コマンドが端末で実行される コマンドを実行するウィンドウを作成しない場合は、このキーの値を true にする必要がある

表 2-3 デスクトップエントリキー (続き)

デスクトップエントリキー	説明
Type	<p>項目のタイプを指定する。次のいずれかを指定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Application: アプリケーションを起動する項目の場合はこのオプションを入力 ■ Link: ファイル、フォルダ、または FTP サイトにリンクする項目の場合はこのオプションを入力
X-GNOME-DocPath	<p>メニュー項目のポップアップメニューから「<i>application-name</i> のヘルプ」を選んだときに表示されるヘルプファイルを指定する</p>
Categories	<p>項目を説明するキーワードを指定する。キーワードはセミコロン (;) で区切る。標準のカテゴリキーワードのリストについては、以下の URL を参照</p> <p>http://www.freedesktop.org/standards/VFolderDesktops.txt</p> <p>vfolder 情報ファイルは、メニューに入力するキーワードを対応付ける</p>

デスクトップエントリファイルのキーに関する詳細については、以下の URL を参照してください。

<http://www.freedesktop.org/standards/desktop-entry-spec/desktop-entry-spec.html>

注 - パネルランチャーやデスクトップオブジェクトも、デスクトップエントリファイルを使用します。ランチャーやデスクトップオブジェクト用のデスクトップエントリファイルは、メニュー項目用のデスクトップエントリファイルと同じ情報を提供します。たとえば、デスクトップエントリファイルは、ユーザーがランチャーまたはオブジェクトを選択したときに実行されるコマンドを提供します。

ディレクトリエントリファイル

「ディレクトリエントリファイル」は、メニューに関する情報を提供するデータファイルです。「ディレクトリエントリファイル」は、名前、ツールチップ、アイコンなどのメニューの詳細を指定します。ディレクトリエントリファイルには、`.directory` ファイル拡張子が付きます。

以下は、ディレクトリエントリファイルのサンプルです。

```
[Desktop Entry]
Name=Accessories
Comment=Accessories menu
Icon=gnome-util.png
Type=Directory
```

表 2-4 は、ディレクトリエントリファイルの最も重要なキーを説明しています。

表 2-4 ディレクトリエントリキー

ディレクトリエントリキー	説明
Name	メニューの名前を指定する。この名前は、メニューに表示される
Comment	メニューの短い説明を指定する。コメントは、メニューを指したときにツールチップとして表示される
Icon	メニューを表すアイコンのファイル名を指定する。ファイル名へのパス、あるいはファイル拡張子は指定しない
Type	メニューのタイプを指定する。このキーの値は常に Directory

メニューの編集

以下のデスクトップ環境コンポーネントを使用してメニューを編集できます。

- Nautilus ファイルマネージャ
- パネル上のメニュー

ファイルマネージャを使用してすべてのユーザーにメニューまたはメニュー項目を追加する場合は、メニューまたはメニュー項目を URI ロケーションに追加します。項目を追加できるメニューと、そのメニューに対応する URI ロケーションは表 2-1 に示しています。

パネルを使用して、すべてのユーザーのメニューをカスタマイズする場合は、メニュー項目ポップアップメニューを使用します。詳細については、『GNOME 2.0 ユーザーズガイド (Solaris 版)』の「メニューの操作方法」を参照してください。

メニューのカスタマイズに、メニュー設定ファイルおよびメニューデータファイルを使用することもできます。

メニューの追加

次の方法を使用して、メニューをすべてのユーザーに追加できます。

- ファイルマネージャを使用する
- メニュー設定ファイルおよびメニューデータファイルを変更する

ファイルマネージャによるメニューの追加

すべてのユーザーにメニューを追加するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウで、メニューを追加する場所にアクセスします。たとえば、「アプリケーション」メニューにメニューを追加する場合は、「場所」フィールドに `applications-all-users:///` と入力して、リターンキーを押します。
2. 「ファイル」→「新規フォルダ」を選択します。未タイトルのフォルダが表示画面に追加されます。フォルダの名前が選択された状態になります。
3. フォルダの名前を入力して、リターンキーを押します。手順1 でアクセスした場所用の `vfolder` 情報ファイルは、新しいメニューの詳細を反映して自動的に更新されます。フォルダの名前は、メニューの名前として表示されます。

注 - フォルダの名前を入力する前に、ファイルマネージャウィンドウのディスプレイを再読み込みしてください。

次回ユーザーがログインすると、メニューに表示されます。

メニューファイルによるメニューの追加

すべてのユーザーにメニューを追加するには、次の手順を実行します。

1. 追加する項目用にディレクトリエントリファイルを作成します。ディレクトリエントリファイルは、`/usr/gnome/share/gnome/vfolders` ディレクトリに作成します。ディレクトリエントリファイルの詳細については、35 ページの「ディレクトリエントリファイル」を参照してください。
2. メニューを追加する場所用の `vfolder` 情報ファイルの場所を確認します。「アプリケーション」メニューにメニューを追加する場合は、ファイル `/usr/gnome/etc/gnome-vfs-2.0/vfolders/applications-all-users.vfolder-info` の場所を確認します。
3. `vfolder` 情報ファイルに、新しいメニュー用の `<Folder>` 要素を追加します。`vfolder` 情報ファイルの詳細については、32 ページの「`vfolder` とメニュー」を参照してください。

次回ユーザーがログインすると、メニューに表示されます。

メニューへの項目の追加

すべてのユーザーのメニューに項目を追加するには、次の手順を実行します。

1. 追加する項目用にデスクトップエントリファイルを作成します。デスクトップエントリファイルの詳細については、34 ページの「デスクトップエントリファイル」を参照してください。
2. ファイルマネージャウィンドウを開きます。「ファイル」→「新規ウィンドウ」を選択して、別のファイルマネージャウィンドウを開きます。

3. 1つのウィンドウで、メニュー項目を追加する場所にアクセスします。たとえば、「設定」メニューにメニュー項目を追加する場合は、「場所」フィールドに `preferences-all-users:///` と入力し、リターンキーを押します。
4. 別のウィンドウで、そのメニュー項目用に作成したデスクトップエントリファイルを選択します。メニュー項目を追加する場所にデスクトップエントリファイルをドラッグします。
あるいは、デスクトップエントリファイルをコピーして、メニュー項目を追加する場所にそのファイルを貼り付けます。

次回ユーザーがログインすると、メニュー項目に表示されます。

メニューの設定の編集

すべてのユーザーのメニューの設定を編集するには、次の手順を実行します。

1. パネルから編集するメニューを開きます。メニュー上の任意の項目を右クリックします。
2. 「メニュー全体」 → 「設定」を選択します。「ランチャーの設定」ダイアログが表示されます。
3. 「ランチャーの設定」ダイアログでメニューの設定を変更します。「ランチャーの設定」ダイアログの要素についての詳細は、『GNOME 2.0 ユーザーズガイド (Solaris 版)』の「パネルの操作方法」を参照してください。
4. 「了解」をクリックします。

メニュー項目の編集

メニュー項目を編集するには、次の手順を実行します。

1. パネルから、編集する項目を含むメニューを開きます。編集する項目を右クリックします。
2. 「設定」を選択します。「ランチャーの設定」ダイアログが表示されます。
3. 「ランチャーの設定」ダイアログでメニュー項目の設定を変更します。「ランチャーの設定」ダイアログの要素についての詳細は、『GNOME 2.0 ユーザーズガイド (Solaris 版)』の「パネルの操作方法」を参照してください。
4. 「了解」をクリックします。

メニューからの項目の削除

メニューから項目を削除するには、パネルから削除する項目を含むメニューを開きます。削除する項目を右クリックします。「ランチャーをメニューから削除」を選択します。

次回ユーザーがログインすると、そのメニュー項目はメニューに表示されません。

ユーザーが変更できないメニューの設定

以下の条件が当てはまる場合、ユーザーはメニューを変更できません。

- メニューに対応する vfolder 情報ファイルが `/etc/gnome-vfs-2.0/vfolder` ディレクトリに存在する
- vfolder 情報ファイルの名前が、メニューに対応する URI ロケーションの名前と同じである
- vfolder 情報ファイルのユーザーアクセス許可が読み取り専用設定されている

ユーザーが変更できないようにメニューを設定するには、次の手順を実行します。

1. `/etc/gnome-vfs-2.0/vfolder` ディレクトリに、設定するメニュー用の vfolder 情報ファイルを作成します。
2. vfolder 情報ファイルの名前に、設定するメニューに対応する URI ロケーションの名前を指定します。たとえば、「アプリケーション」メニューを設定する場合、`/etc/gnome-vfs-2.0/vfolder` ディレクトリに `applications.vfolder-info` という名前で vfolder 情報ファイルを作成します。
3. vfolder 情報ファイルのアクセス許可を読み取り専用設定します。

第 3 章

テーマのインストール

この章では、GNOME デスクトップで利用可能なテーマの種類、テーマのインストール方法、およびカスタムテーマの作成方法について説明します。

- 41 ページの「テーマの概要」
- 42 ページの「デスクトップテーマのインストール」
- 42 ページの「ウィンドウフレームテーマのインストール」
- 43 ページの「テーマ用のアイコンのインストール」
- 44 ページの「カスタムデスクトップテーマの作成」

テーマの概要

「テーマ」は、デスクトップ環境の外観を指定する統合的な設定グループです。テーマを選ぶことにより、デスクトップの外観を変更できます。

以下のテーマは、それぞれデスクトップ環境の異なる部分に影響します。

デスクトップテーマ

デスクトップテーマは、ウィンドウ、パネル、およびアプレットの外観を決定します。また、ウィンドウ、パネル、およびアプレット上に現れる GNOME 対応インタフェース (メニュー、アイコン、ボタンなど) の外観も決定します。利用可能な一部のデスクトップテーマは、特別なアクセシビリティ要件に適應するように設計されています。デスクトップテーマはテーマの設定ツールの「ウィジェットテーマ」タブセクションから選択できます。

ウィンドウフレームテーマ

ウィンドウフレームテーマは、ウィンドウ周りのフレームの外観のみを決定します。ウィンドウフレームテーマはテーマの設定ツールの「ウィンドウフレーム」タブセクションから選択できます。

デスクトップテーマのインストール

デスクトップテーマは、`/usr/share/themes` ディレクトリにあります。ファイルシステムでのデスクトップテーマの典型的なディレクトリ構造は、以下のとおりです。

```
テーマファイル  /usr/share/themes/theme_name/gtk-2.0/gtkrc
イメージファイル  /usr/share/themes/theme_name/pixmap/*.*
ル
```

通常、新しいデスクトップテーマは、`.tar.gz` ファイルで提供されます。新しいデスクトップテーマをインストールするには、`.tar.gz` ファイルを解凍して、`.tar` ファイルを `/usr/share/themes` ディレクトリに展開します。

ユーザーは独自のデスクトップテーマをインストールすることができます。ユーザーが独自のデスクトップテーマをインストールする場合、そのテーマは `$HOME/.themes` ディレクトリに格納されます。

ウィンドウフレームテーマのインストール

ウィンドウフレームテーマは、`/usr/share/themes/theme-name/metacity-1` ディレクトリにあります。ファイルシステムでのウィンドウフレームテーマの典型的なディレクトリ構造は、以下のとおりです。

```
テーマファイル  /usr/share/themes/theme_name/metacity-1/metacity-theme-1.xml
イメージファイル  /usr/share/themes/theme_name/metacity-1/*.*
ル
```

通常、新しいウィンドウフレームテーマは、`.tar.gz` ファイルで提供されます。新しいウィンドウフレームテーマをインストールするには、`.tar.gz` ファイルを解凍して、`.tar` ファイルを `/usr/share/themes` ディレクトリに展開します。

ユーザーは独自のウィンドウフレームテーマをインストールすることができます。ユーザーが独自のウィンドウフレームテーマをインストールする場合、そのテーマは `$HOME/.themes` ディレクトリに格納されます。

テーマ用のアイコンのインストール

デスクトップ環境には、特別な視覚的要件を持つユーザー用に設計されたいくつかのテーマがあります。たとえば、視力の弱いユーザー用に設計されたテーマが用意されています。テーマには、同じアイコンのいくつかのバージョンが含まれているため、各テーマごとにアイコンを表示できます。

アプリケーション用に新しいアイコンをインストールしなければならない場合があります。新しいアイコンをインストールするときは、そのアイコンに対していくつかのバージョンを作成する必要があります。それによって、アイコンはそれぞれのテーマで正しく表示されます。アイコンは、いくつかの形式で作成できます。たとえば PNG (Portable Network Graphic) 形式など。デスクトップ環境用のアイコンの推奨サイズは、48 x 48 ピクセルです。このサイズであれば、ほとんどのテーマでそのアイコンの大きさを変更できます。

新しいアイコンをインストールするときは、以下に示すアイコンを 48 x 48 ピクセルバージョンで作成します。

- 通常のアイコン
- 低コントラストのアイコン
- 高コントラストのアイコン
- 反転の高コントラストのアイコン

大きな表示を必要としないテーマのために、可能な場合、上記の各アイコンに対して 16 x 16 ピクセルバージョンも作成します。

アイコンは、42 ページの「デスクトップテーマのインストール」または42 ページの「ウィンドウフレームテーマのインストール」で説明されているイメージファイルの場所にインストールします。たとえば、アイコンを HighContrast テーマに追加する場合は、そのアイコンを `/usr/share/themes/HighContrast/pixmaps` ディレクトリに追加します。該当するテーマファイルにアイコンの参照先を追加します。たとえば、アイコンを HighContrast テーマに追加する場合は、アイコンの参照先を `/usr/share/themes/HighContrast/gtk-2.0/gtkrc` ファイルに追加します。

上記の説明は、次の種類のアイコンのみに適用されます。

- デスクトップ環境のアプリケーション内で使用されるアイコン
- GTK+ アプリケーションによって内部で使用されるアイコン、または GTK+ ストックアイコン

アプリケーションランチャー用およびパネル用のアイコンの作成方法については、<http://www.freedesktop.org/standards/icon-theme-spec.html> を参照してください。

カスタムデスクトップテーマの作成

デスクトップテーマがユーザー要件に適応しない場合は、カスタムのデスクトップテーマを作成できます。カスタムデスクトップテーマを作成するには、次の手順を実行します。

1. テーマのディレクトリ構造を `/usr/share/themes` ディレクトリ内に作成します。ほかのテーマと同じディレクトリ構造を使用します。たとえば、`SmallPrint` というテーマを作成する場合は、次のディレクトリを作成します。
 - `/usr/share/themes/SmallPrint/gtk-2.0`
 - `/usr/share/themes/SmallPrint/pixmaps`
2. ユーザー要件をほぼ満たす `gtkrc` テーマファイルを見つけます。そのファイルを新しいテーマの `gtk-2.0` ディレクトリにコピーします。
3. テキストエディタを使用して、`gtkrc` ファイルを開き、必要に応じてインターフェイス要素の属性を変更します。
4. 新しいテーマにイメージが含まれる場合は、そのイメージを新しいテーマの `pixmaps` ディレクトリにインストールします。新しいテーマが別のテーマのイメージを使用する場合は、新しいテーマ用にイメージのコピーを作成する必要はありません。ただし、`gtkrc` ファイルの `pixmap_path` エントリに登録されているイメージへの参照が正しいことを確認する必要があります。

以上の操作により、新しいテーマを選択できるようになります。

`gtkrc` ファイルの詳細について

は、<http://developer.gnome.org/doc/API/2.0/gtk/index.html> を参照してください。

第 4 章

MIME タイプ

この章では、アプリケーションがどのように MIME タイプを検出するかを説明します。また、MIME タイプの登録方法、およびデスクトップ環境へのアプリケーションの追加方法についても説明します。

- 45 ページの「MIME タイプの概要」
- 46 ページの「ファイルの MIME タイプの検出」
- 50 ページの「MIME タイプのためのアプリケーションの登録」
- 52 ページの「デスクトップ環境へのアプリケーションの追加」

MIME タイプの概要

MIME (*Multipurpose Internet Mail Extension*) タイプは、ファイルの書式を特定します。アプリケーションは、MIME タイプによってファイルを読み取ることができます。インターネットブラウザや電子メールなどのアプリケーションは、MIME タイプを使用して異なるタイプのファイルを扱います。たとえば、電子メールアプリケーションの場合、MIME タイプを使用して電子メールに添付されているファイルのタイプを検出します。

Nautilus ファイルマネージャは MIME タイプを使用してファイルの種類を識別します。ファイルマネージャは、以下のタスクを実行するために MIME タイプを知る必要があります。

- 正しいアプリケーションでファイルを開く
- ファイルのタイプを説明する文字列を表示する
- ファイルを表す適切なアイコンを表示する
- そのファイルを開くことが可能な別のアプリケーションのリストを表示する

新しいアプリケーションを追加する場合は、そのアプリケーションに関連付けられるファイル、ほかのアプリケーションが認識できる必要があります。ほかのアプリケーションがそのアプリケーションファイルの MIME タイプを検出するためには、いくつかのタスクを実行する必要があります。

この節では、アプリケーションはどのようにファイルの MIME タイプを検出するか、またアプリケーションはどのように MIME タイプに関連付けられるのかを説明します。また、この章では、新しいアプリケーションを追加するための手順についても説明します。

ファイルの MIME タイプの検出

アプリケーションは以下の方法でファイルの MIME タイプを検出します。

1. アプリケーションは、「ファイルタイプ検索ツール」を使用して、ファイル内の特定のパターンを検索します。ファイルタイプ検索ツールは、ファイル内の特定のパターンと MIME タイプに関連付けます。アプリケーションがそのパターンとの一致を見つけると、そのパターンに関連付けられている MIME タイプがファイルの MIME タイプになります。
2. ファイルタイプ検索ツールによって MIME タイプが識別されない場合、アプリケーションはファイル名を調べます。アプリケーションは、ファイル名を「MIME タイプレジストリ」と照合します。MIME タイプレジストリは、特定のファイル拡張子とファイル名パターンを特定の MIME タイプに関連付けます。ファイル名との一致が見つかり、その拡張子またはパターンに関連付けられている MIME タイプが、ファイルの MIME タイプになります。

この節では、ファイルタイプ検索ツールと MIME タイプレジストリについて詳しく説明します。

ファイルタイプ検索ツール

ファイルタイプ検索ツールは、`/usr/gnome/etc/gnome-vfs-mime-magic` ファイルに指定されています。以下にファイルタイプ検索ツールの例を示します。

```
0 string  \x89PNG          image/png
```

ファイルタイプ検索ツールの構文は、以下のとおりです。

```
offset_start[:offset_end] pattern_type pattern [&pattern_mask] type
```

表 4-1 は、ファイルタイプ検索ツールの各フィールドを説明しています。

表 4-1 ファイルタイプ検索ツールのフィールド

フィールド	説明
offset_start	テキストパターンを検索する前に、ファイル内で無視する文字数を指定します。
pattern_type	検索するパターンのタイプを指定します。このマニュアルの発行時点では、string パターンタイプのみがサポートされています。
pattern	検索するパターンを指定します。
pattern_mask	パターンマスクは、16 進数形式で指定します。パターンマスクについては、次の節を参照してください。 このフィールドは省略可能です。このフィールドは例には示されていません。
type	このエントリと一致するファイルに関連付ける MIME タイプを指定します。

パターンマスク

パターンマスクは、ファイル内でパターンを検索するときに、パターン中で無視するビットを識別します。以下は、ファイルタイプ検索ツールとパターンマスクの例を示しています。

```
0 string BMxxxx\000\000 &0xffff00000000ffff image/bmp
```

この例のパターンとマスクは、以下のとおりです。

パターン	B	M	x	x	x	x	\000	\000
マスク	ff	ff	00	00	00	00	ff	ff

パターンとマスクは、次のような特性でファイルを指定します。

1. ファイルは BM から始まります。
2. BM の後に、任意の 4 バイトの値が続きます。
3. 任意の 4 バイトの後に、\000\000 が続きます。

ファイルタイプ検索ツールは、このパターンとマスクに一致するファイルの MIME タイプが、image/bmpであることを示します。

MIME タイプレジストリ

MIME タイプレジストリは、`/usr/gnome/share/mime-info` にあります。MIME タイプレジストリには、次のファイルが含まれています。

ファイル	ファイル拡張子
MIME 情報ファイル	<code>.mime</code>
MIME キーファイル	<code>.keys</code>

この節では、MIME 情報ファイルと MIME キーファイルについて説明します。

MIME 情報ファイル

MIME 情報ファイルは、MIME タイプを以下の 1 つまたは両方と関連付けます。

- ファイル拡張子
- ファイル名のパターン

アプリケーションがファイルの MIME タイプを検索する場合、アプリケーションはファイル名を MIME 情報ファイルと照合します。ファイル名との一致が見つかったら、その拡張子またはパターンに関連付けられている MIME タイプが、ファイルの MIME タイプになります。

MIME 情報ファイルでは、検索するファイル名のパターンは、正規表現で書かれています。

MIME 情報ファイル内の MIME タイプエントリの形式は、以下のとおりです。

```
MIME_type
  ext[priority]:list_of_extensions
  regex[priority]:list_of_regular_expressions
```

ファイル拡張子および正規表現に、優先順位値を指定できます。優先順位値を使用して、複合されたファイル名を区別できます。たとえば、`.gz` 拡張子に優先順位値 1 を割り当て、それより高い優先順位値の 2 を `.tar.gz` 拡張子に割り当てたとしてします。この場合、ファイル `abc.tar.gz` の MIME タイプは、`.tar.gz` になります。

注 - `ext` フィールドと `regex` フィールドは、タブ文字 (`\t`) を使用してインデントする必要があります。

以下の MIME タイプエントリは、`gnome-vfs.mime` MIME 情報ファイルからのサンプルです。


```
application/x-compressed-tar
  regex,2: tar\.gz$
  ext: tgz
audio/x-real-audio
  ext: rm ra ram
image/jpeg
  ext: jpe jpeg jpg
image/png
  ext: png
text/html
  ext: html htm HTML
text/plain
  ext: asc txt TXT
text/x-readme
  regex: README.*
```

注 - ファイルマネージャは、MIME 情報ファイルをアルファベット順に読み取ります。MIME タイプがファイル拡張子または正規表現と関連付けられる順序は、アルファベット順で決定します。たとえば、ファイル abc.mime と def.mime で、同じファイル拡張子が異なる MIME タイプに割り当てられている場合、abc.mime にある MIME タイプが使用されます。

MIME キーファイル

MIME キーファイルは、ユーザーインターフェイスで使用される MIME タイプに関する情報を提供します。たとえば、MIME キーファイルは、MIME タイプの説明を提供し、その MIME タイプのファイルを表すアイコンを指定します。

以下の例は、MIME キーファイルのサンプルを示しています。

```
text/html
  description=HTML page
  icon_filename=gnome-text-html
  default_action_type=application
  short_list_application_ids_for_novice_user_level=mozilla,netscape,galeon
  category=Documents/World Wide Web
```

注 - MIME キーファイル内のキーは、タブ文字 (\t) を使用してインデントする必要があります。

表 4-2 は、MIME キーファイルで最も重要なキーについて説明しています。通常、description キーと category キーは使用しているシステム環境に対応します。

表 4-2 MIME キーファイル内のキー

キー	説明
can_be_executable	この MIME タイプのファイルが実行可能かどうかを指定します
description	MIME タイプの説明。この説明は、ファイルマネージャおよびほかのアプリケーションで表示できます
icon_filename	MIME タイプを表すアイコンのファイル名を指定します。ファイル名へのパス、あるいはファイル拡張子は指定しません このアイコンは、ファイルマネージャおよびほかのアプリケーションで表示できます
default_action_type	この MIME タイプのファイルを開いたときに行われる動作のカテゴリを指定します。ほとんどのアプリケーションのこの MIME タイプに、application を指定します
short_list_application_ids_for_novice_user_level	この MIME タイプのファイルを開くときに使用するアプリケーションを指定します。優先順に 1 つ以上のアプリケーションを指定します。アプリケーションは、アプリケーションレジストリに登録する必要があります
category	MIME タイプのカテゴリを指定します。このキーの値は、ファイルタイプとプログラム設定ツール内の MIME タイプの場所を決定します

MIME タイプのためのアプリケーションの登録

アプリケーションレジストリには、アプリケーションを登録するテキストファイルが含まれています。このアプリケーション登録ファイルには、アプリケーションの詳細を指定する一連のキーと値の組み合わせが含まれています。アプリケーション登録ファイルには、以下の情報が含まれています。

- アプリケーションの起動に使用するコマンド
- アプリケーションに関連付ける MIME タイプ

アプリケーション登録ファイルには、1 つ以上のアプリケーションを登録することができます。アプリケーション登録ファイルには、.applications 拡張子が付きません。

アプリケーションレジストリの場所は、`/usr/share/gnome/application-registry` です。このディレクトリには、デフォルトのアプリケーション登録ファイル (`gnome-vfs.applications`) があります。

アプリケーションを登録するには、アプリケーションレジストリにそのアプリケーションの登録ファイルを追加します。

以下は、アプリケーション登録の例です。

```
eog
  command=eog
  name=Eye of Gnome
  can_open_multiple_files=true
  expects_uris=false
  requires_terminal=false
  mime_types=image/bmp,image/gif,image/jpeg,image/png,image/tiff,
image/x-epixmap,image/x-bmp,image/x-png,image/x-portable-anymap,
image/x-portable-bitmap,image/x-portable-graymap,
image/x-portable-pixmap
```

表 4-3 は、アプリケーション登録ファイル内のキーを説明しています。

表 4-3 アプリケーション登録のためのキー

キー	説明
Application identifier	アプリケーションの一意の識別子を指定します。この識別子は、このアプリケーション用の MIME キーファイル内の <code>short_list_application_ids_for_novice_user_level</code> キー内の識別子と同じにする必要があります
command	アプリケーションの起動に使用するコマンド、およびコマンドと共に使用するオプションを指定します
name	アプリケーションの名前を指定します。この名前は、ユーザーインターフェイスに表示されず。たとえば、この名前は、ファイルマネージャの「他のもので開く」サブメニューに表示されます
can_open_multiple_files	アプリケーションが複数のファイルを同時に開くことができるかどうかを指定します
expects_uris	アプリケーションが URI を処理できるかどうかを指定します。このキーの値が <code>true</code> の場合、アプリケーション登録エントリ内に <code>supported_uri_schemes</code> キーが必要です

表 4-3 アプリケーション登録のためのキー (続き)

キー	説明
<code>supported_uri_schemes</code>	アプリケーションが処理できる URI スキーマを指定します
<code>requires_terminal</code>	アプリケーションを端末で実行するかどうかを指定します。アプリケーションが実行に使用するウィンドウを作成しない場合は、このフィールドに <code>true</code> を入力します
<code>mime_types</code>	アプリケーションが使用できる MIME タイプを指定します

デスクトップ環境へのアプリケーションの追加

デスクトップ環境にアプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーション用にメニュー項目を追加します。メニュー項目の追加方法については、第 2 章を参照してください。
2. `/usr/gnome/share/icons/theme-name/icon-size/apps` に、アプリケーション用のアイコンを追加します。アイコンおよびテーマの詳細については、第 3 章を参照してください。
3. アプリケーションが新しい MIME タイプを使用する場合は、その新しい MIME タイプ用のファイルタイプ検索ツールを追加します。ファイルタイプ検索ツールの詳細については、46 ページの「ファイルタイプ検索ツール」を参照してください。
4. アプリケーションが新しい MIME タイプを使用する場合は、そのアプリケーション用の MIME 情報ファイルを MIME タイプレジストリに追加します。MIME 情報ファイルの詳細については、48 ページの「MIME 情報ファイル」を参照してください。
5. アプリケーション用の MIME キーファイルを MIME タイプレジストリに追加します。MIME キーファイルの詳細については、49 ページの「MIME キーファイル」を参照してください。
6. アプリケーションが新しい MIME タイプを使用する場合は、その MIME タイプ用のアイコンを `/usr/gnome/share/icons/theme_name/icon_size/mimetypes` に追加します。アイコンおよびテーマの詳細については、第 3 章を参照してください。
7. アプリケーションと MIME タイプを関連付けるには、アプリケーション登録ファイルをアプリケーションレジストリに追加します。アプリケーションレジストリの詳細については、50 ページの「MIME タイプのためのアプリケーションの登録」を参照してください。

第 5 章

スクリーンセーバーの設定

この章では、スクリーンセーバーの設定を行う方法について説明します。この章では、スクリーンセーバーに利用可能なディスプレイの変更方法についても説明します。

- 53 ページの「スクリーンセーバーの概要」
- 53 ページの「スクリーンセーバーの設定」
- 55 ページの「スクリーンセーバーディスプレイの変更」

スクリーンセーバーの概要

スクリーンセーバーは、画面が使用されていないときに、画面上のイメージを置き換えるアプリケーションです。GNOME デスクトップ用のスクリーンセーバーアプリケーションは、XScreenSaver です。この節では、XScreenSaver アプリケーションの設定方法、スクリーンセーバーに利用可能なディスプレイの変更方法について説明します。

スクリーンセーバーの設定

デフォルトのスクリーンセーバー設定は、XScreenSaver ファイルに格納されています。このファイルは、次に示すように、プラットフォームごとに異なる場所に格納されています。

注 - XScreenSaver アプリケーションでは、root としてログインしたユーザーは画面をロックできません。画面をロックできるようにするには、通常のユーザーとしてログインしてください。システム管理者特権を取得するには、端末ウィンドウを開いた後、su コマンドを使って root としてログインします。

プラットフォーム	ファイルの場所
RedHat Linux	/usr/X11R6/lib/X11/app-defaults/XScreenSaver
Solaris オペレーティング環境	/usr/openwin/lib/app-defaults/XScreenSaver

スクリーンセーバーのアプリケーション設定を変更するには、スクリーンセーバー設定ツールを使用します。スクリーンセーバー設定ツールを使用するには、メニューパネルから「アプリケーション」→「デスクトップ設定」→「スクリーンセーバー」を選択します。スクリーンセーバー設定を変更すると、ホームディレクトリに \$HOME/.xscreensaver ファイルとして格納されます。スクリーンセーバー設定の詳細については、『GNOME 2.0 ユーザーズガイド (Solaris 版)』を参照してください。

/usr/openwin/bin/xscreensaver-demo コマンドを実行しても、「XScreenSaver」ダイアログを開くことができます。

すべてのユーザー用にデフォルトのスクリーンセーバー設定を行うには、XScreenSaver ファイルを変更します。また、「XScreenSaver」ダイアログを使用して、\$HOME/.xscreensaver ファイルを作成し、そのファイルを XScreenSaver ファイルの場所にコピーすることもできます。

ユーザーのデフォルト設定を復元する場合は、そのユーザーのホームディレクトリから \$HOME/.xscreensaver ファイルを削除します。\$HOME/.xscreensaver ファイルが存在しない場合は、XScreenSaver ファイルのデフォルト設定が使用されています。

注 - XScreenSaver のデフォルトの表示動作では、ブランク画面が表示されます。ブランク画面ではユーザーが困惑する恐れがあります。したがって、デフォルトの表示動作を変更することをお勧めします。

スクリーンセーバー設定の変更を有効にするには、以下のコマンドを使用してスクリーンセーバー設定を再読み込みします。

```
# xscreensaver-command -restart
```

注 - このマニュアルの発行時点では、xset アプリケーションは、XScreenSaver で機能していません。スクリーンセーバー設定を変更するには、XScreenSaver ファイルまたは \$HOME/.xscreensaver ファイルを変更します。

スクリーンセーバーディスプレイの変更

スクリーンセーバーアプリケーションでは、1つ以上のスクリーンセーバーディスプレイを選択できます。スクリーンセーバーディスプレイは、画面が使用されていないときに、画面上にイメージを表示するアプリケーションです。スクリーンセーバーディスプレイは、XScreenSaver ファイルと \$HOME/.xscreensaver ファイルに記述されています。

新しいスクリーンセーバーディスプレイを追加するには、ディスプレイの実行可能ファイルを /usr/openwin/lib/xscreensaver/hacks ディレクトリにコピーします。スクリーンセーバーディスプレイのコマンドを XScreenSaver ファイルまたは \$HOME/.xscreensaver ファイルに追加します。ウィンドウ内ではなく、全画面上でスクリーンセーバーディスプレイを実行するのに必要となる引数を含めます。たとえば、スクリーンセーバーディスプレイを全画面に表示するのに、-root オプションを含める場合があります。

スクリーンセーバーディスプレイを無効にするには、設定ファイルで、スクリーンセーバーディスプレイのコマンドの先頭にマイナス記号 (-) を追加します。以下の \$HOME/.xscreensaver ファイルからの抜粋は、Qix (solid) スクリーンセーバーディスプレイを無効化した状態を表しています。

```
- "Qix (solid)" qix -root -solid -segments 100
```

Sun Ray™ シンクライアント上のすべてのユーザーのスクリーンセーバーディスプレイを無効にするには、/usr/openwin/lib/xscreensaver/hacks ディレクトリ名を hacks 以外の名前に変更します。

GNOME デスクトップでは、OpenGL スクリーンセーバーが提供されています。OpenGL ライブラリをインストールしているユーザーは少ないため、デフォルトでは、すべての OpenGL スクリーンセーバーディスプレイが無効に設定されています。OpenGL ライブラリをインストールしているユーザーは、「XScreenSaver」ダイアログを使用して、OpenGL スクリーンセーバーディスプレイを有効に設定できます。

いくつかのスクリーンセーバーは、デスクトップ環境の内容を表示します。セキュリティ違反を防止するために、デスクトップ環境の内容を表示するスクリーンセーバーディスプレイは米国サン・マイクロシステムズ社またはその関係会社配布の GNOME デスクトップには含まれていません。

注 - XScreenSaver アプリケーションの PAM (Pluggable Authentication Modules) サービス名は、`dtsession` です。この名前は、以前のアプリケーションと互換性を持つために使用されています。

第 6 章

セッション管理

この章では、セッション管理の概要と、セッションのデフォルトを設定する方法について説明します。また、セッションとログインスクリプトに関する情報も提供します。

- 57 ページの「セッションの概要」
- 58 ページの「セッションのデフォルトの設定」
- 58 ページの「ログインスクリプト」

セッションの概要

デスクトップ環境にログインしてから、ログアウトするまでの間をセッションといいます。ログインマネージャによってユーザーが認証されると、セッションマネージャが開始されます。ユーザーは、セッションマネージャによりセッションを管理できます。たとえば、セッションの状態を保存して、次回ログインしたときにそのセッションに戻ることができます。

少なくとも、以下のアプリケーションがセッションで動作します。

- `gnome-session` セッションマネージャ
- GConf X 設定デーモンの `gnome-settings-daemon`
- デスクトップ環境でパネルを起動する `gnome-panel` アプリケーション
- Metacity ウィンドウマネージャ

セッションのデフォルトの設定

以下の表は、デフォルトのセッション情報が含まれているファイルを示しています。

ファイル	説明
<code>/usr/share/gnome/default.session</code>	デフォルトのセッションファイル。デフォルトのセッションの詳細は、このファイルに格納されています
<code>\$HOME/.gnome2/session</code>	ユーザーセッションファイル。セッションを変更した場合、その詳細がこのファイルに格納されます

すべてのユーザー用にデフォルトのセッションの詳細を設定する場合は、デフォルトのセッションファイルを変更します。

ユーザーのデフォルトのセッション設定を復元する場合は、そのユーザーのホームディレクトリからセッションファイルを削除します。ユーザーセッションファイルが存在しない場合は、`/usr/share/gnome/default.session` のデフォルト設定が使用されています。

現在のセッションをデフォルトセッションとして保存する場合、`gnome-session-save` コマンドを実行します。

ログインスクリプト

GNOME デスクトップでは、システム全体のログインスクリプトやログアウトスクリプトをサポートしていません。セッションマネージャでは、ユーザーは自分のセッションしか設定できません。非セッション管理の起動アプリケーションについては、セッション設定ツールで設定できます。

ヒント – システム全体のログインスクリプトはサポートされていませんが、それに代る方法があります。/usr/dt/config/Xsession.d ディレクトリにスクリプトを作成することで、システム全体のログインスクリプトを作成できます。次のように、スクリプトに名前を付けます。

number_greater_than_1000. name

たとえば、1050.login とします。/usr/dt/config/Xsession.d ファイルの詳細については、dtlogin(1) のマニュアルページの「*The XSession File*」を参照してください。

第 7 章

パフォーマンスの改善

このマニュアルでは、GNOME デスクトップのパフォーマンスを改善する方法について説明します。

- 61 ページの「パフォーマンスの改善の概要」
- 61 ページの「CPU 使用率の低減」
- 68 ページの「X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックの低減」
- 69 ページの「色の使用を減らして表示品質を改善」

パフォーマンスの改善の概要

この章では、デスクトップ環境のパフォーマンスを改善するために変更できるいくつかの設定について説明します。ユーザー設定について値を設定するには、`gconftool-2` コマンドを使用します。この章のコマンド例では、ユーザー設定ソースの値を変更する方法を示します。

`--direct` および `--config-source` オプションを使用して、設定の必須値またはデフォルト値をセットできます。また、スクリプト内で `gconftool-2` コマンドを使用して、多数の設定値をセットすることもできます。`gconftool-2` コマンドと、このコマンドに使用できるオプションについては、第 1 章を参照してください。

CPU 使用率の低減

この節では、デスクトップ環境の CPU 使用率を減らすための設定について説明します。

CPU リソースをあまり必要としないテーマを使用する

一部のウィンドウフレームテーマは、ウィンドウフレームを描くのにイメージファイルを読み込みます。ほかのテーマは、単純なテクニックを使用してウィンドウフレームを描きます。

デフォルトのテーマは、Crux です。Crux は、イメージファイルを読み込むため、CPU リソースに制限がある場合には、システム上で遅くなることがあります。CPU 使用率を減らすには、以下のいずれかのウィンドウフレームテーマを使用します。

- Atlanta
- Esco

以下のウィンドウフレームテーマも、Crux よりは CPU リソースの使用率が少なくなります。

- AgingGorilla
- Bright
- Metabox

注 - Metabox は、HighContrastInverse などの反転表示デスクトップテーマとは正しく動作しません。反転表示デスクトップテーマには、Atlanta を使用します。

ウィンドウフレームテーマを変更するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type string --set /apps/metacity/general/theme  
theme_name
```

Atlanta を使用する場合は、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type string --set /apps/metacity/general/theme  
Atlanta
```

または、「アプリケーション」→「デスクトップ設定」→「テーマ」を選択して、該当するテーマを選択します。

ヒント – Metacity テーマビューアを使用して、ウィンドウフレームテーマのパフォーマンスを測定したり、テーマをプレビューできます。Metacity テーマビューアを起動するには、次のコマンドを使用します。

```
# metacity-theme-viewer theme_name
```

たとえば、Atlanta のパフォーマンスを測定し、Atlanta をプレビューするには、次のコマンドを実行します。

```
# metacity-theme-viewer Atlanta
```

メニュー上のアイコンをオフにして CPU 使用率を減らす

メニュー上のいくつかの項目は、その項目の横にアイコンが表示されます。この機能をオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set  
/desktop/gnome/interface/menus_have_icons false
```

または、「アプリケーション」→「デスクトップ設定」→「メニューとツールバー」を選択して、「メニューにアイコンを表示」オプションを選択解除します。

ワイヤフレームモードをオンにして CPU 使用率を減らす

Metacity ウィンドウマネージャには、ウィンドウの移動やサイズ変更を行うときに使用されるワイヤフレームモードがあります。ワイヤフレームモードがオンの場合、ウィンドウの移動やサイズ変更を行うと、ウィンドウの外枠のみが表示されます。移動またはサイズ変更中、ウィンドウの内容を更新する必要がないからです。ウィンドウの内容は、移動またはサイズ変更が終了すると表示されます。

ワイヤフレームモードをオンにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set  
/apps/metacity/sun_extensions/wireframe_move_resize true
```

スプラッシュ画面をオフにして CPU 使用率を減らす

デフォルトでは、デスクトップ環境にログインすると、スプラッシュ画面が表示されます。ログインしている間は、スプラッシュ画面にアイコンが表示されています。スプラッシュ画面をオフにすると、ログインしている間の CPU 使用率を減らせます。

スプラッシュ画面をオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set /apps/gnome-session/options/show_splash_screen false
```

または、「アプリケーション」→「デスクトップ環境」→「拡張設定」→「セッション」を選択して、「ログイン時にスプラッシュ画面を表示する」オプションを選択解除します。

パネルアニメーションをオフにして CPU 使用率を減らす

パネルを表示または非表示にするときに、動画形式でパネルを表示または非表示にすることができます。パネルアニメーションをオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set /apps/panel/global/enable_animations false
```

または、「アプリケーション」→「デスクトップ設定」→「拡張設定」→「パネル」を選択して、「アニメーション」オプションを選択解除します。

ファイルマネージャのパフォーマンスの改善

Nautilus ファイルマネージャの一部の機能を変更して、パフォーマンスを改善できます。

パフォーマンス設定を変更する

ファイルマネージャには、パフォーマンスに関連する設定があります。各パフォーマンス設定は、3つの値のうち1つを持ちます。以下の表は、3つの値を説明しています。

値	説明
always	ローカルファイルと、別のファイルシステム上のファイルに対して、アクションを実行します
local_only	ローカルファイルに対してのみアクションを実行します。パフォーマンス設定を local_only セットすると、CPU 使用率は減少します

値	説明
never	アクションを実行しません。パフォーマンス設定を never にセットすると、CPU 使用率とネットワークトラフィックは減少します

以下の表は、ファイルマネージャのパフォーマンス設定を説明しています。パフォーマンスを上げるには、設定値を never に設定します。

設定	説明
show_icon_text	<p>ファイルを表すアイコンで、テキストファイルの内容をいつプレビューするかを指定します。テキストファイルの内容をプレビューしない場合は、次のコマンドを実行します</p> <pre># gconftool-2 --type string --set /apps/nautilus/preferences/show_icon_text never</pre> <p>または、次の手順を実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択して、「パフォーマンス」を選択します 2. 「アイコンにテキストを表示」設定のオプションを選択します
show_directory_item_counts	<p>フォルダ内のアイテム数をいつ表示するかを指定します。フォルダ内の項目数を表示しない場合は、次のコマンドを実行します</p> <pre># gconftool-2 --type string --set /apps/nautilus/preferences/show_directory_item_counts never</pre> <p>または、次の手順を実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択して、「パフォーマンス」を選択します 2. 「フォルダ内のアイテム数を表示」設定のオプションを選択します

設定	説明
show_image_thumbnails	<p>イメージファイルのサムネイルをいつ表示するかを指定します。サムネイルを表示しない場合は、次のコマンドを実行します</p> <pre># gconftool-2 --type string --set /apps/nautilus/preferences/ show_image_thumbnails never</pre> <p>または、次の手順を実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択して、「パフォーマンス」を選択します 2. 「画像ファイルのサムネイルを表示」設定のオプションを選択します
preview_sound	<p>サウンドファイルの内容をいつプレビューするかを指定します。サウンドファイルの内容をプレビューしない場合は、次のコマンドを実行します</p> <pre># gconftool-2 --type string --set /apps/nautilus/preferences/preview_sound never</pre> <p>または、次の手順を実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択して、「パフォーマンス」を選択します 2. 「サウンドファイルをプレビュー」設定のオプションを選択します

サイド区画、ツールバー、ロケーションバーをオフにする

ファイルマネージャには、サイド区画とツールバーをオフにできる設定が含まれています。サイド区画とツールバーをオフにすると、ファイルマネージャのパフォーマンスが改善します。

サイド区画をオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set
/apps/nautilus/preferences/start_with_sidebar false
```

または、ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択します。次に、「ウィンドウ」を選択して、「サイド区画を表示する」オプションを選択解除します。次回ファイルマネージャウィンドウを開くと、ウィンドウにサイド区画は表示されません。

ツールバーをオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set
/apps/nautilus/preferences/start_with_toolbar false
```

または、ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択します。次に、「ウィンドウ」を選択して、「ツールバーを表示する」オプションを選択解除します。次回ファイルマネージャウィンドウを開くと、ウィンドウにツールバーは表示されません。

ロケーションバーもオフに設定できます。Ctrl + L キーボードショートカットを使用して、ロケーションバーを必要に応じて表示できます。

ロケーションバーをオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set
/apps/nautilus/preferences/start_with_location_bar false
```

または、ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択します。次に、「ウィンドウ」を選択して、「ロケーションバーを表示する」オプションを選択解除します。次回ファイルマネージャウィンドウを開くと、ウィンドウにロケーションバーは表示されません。

デスクトップをオフにする

ファイルマネージャには、Nautilus を使用してデスクトップを管理できる設定が含まれています。デスクトップを無効にすることで、パフォーマンスを改善できます。デスクトップを無効にした場合、次の操作を行えません。

- 「デスクトップ」メニューの使用
- ファイルマネージャを使用してデスクトップ背景のパターンまたは色の変更
- 「ホーム」オブジェクトと「ごみ箱」オブジェクトの使用。「ホーム」オブジェクトと「ごみ箱」オブジェクトはデスクトップ上に表示されません。

デスクトップを無効にするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set
/apps/nautilus/preferences/show_desktop false
```

または、ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択します。その後、「デスクトップとごみ箱」を選択して、「デスクトップの描画に Nautilus を使用する」オプションを選択解除します。

mediaLib ライブラリを使用する

mediaLib™ ライブラリは、共通のマルチメディア操作を高速化する関数の集まりです。mediaLib ライブラリがシステムにインストールされている場合、デスクトップ環境はこのライブラリを使用します。デスクトップ環境のパフォーマンス (特に Nautilus) は、mediaLib ライブラリがインストールされていると大幅に向上します。デスクトップ環境では、mediaLib version 2.0 以降が必要です。

mediaLib ライブラリの取得方法とインストール方法については、mediaLib の Web サイトを参照してください。 <http://www.sun.com/processors/vis/mlib.html>

X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックの低減

この節では、デスクトップ環境で X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックを減少させる設定について説明します。

ネットワークトラフィックの少ないテーマを使用する

リモートディスプレイプロトコルは、ピクセルブロック内のピクセルがすべて同じ色の場合、そのブロック内のすべてのピクセルを転送しません。

X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックを減らすには、単一色を使用するウィンドウフレームテーマを使用します。つまり、次のいずれかのウィンドウフレームテーマを使用します。

- Atlanta
- Esco

テーマの変更方法については、62 ページの「CPU リソースをあまり必要としないテーマを使用する」を参照してください。

メニュー上のアイコンをオフにしてネットワークトラフィックを減らす

メニュー上のいくつかの項目は、その項目の横にアイコンが表示されます。アイコンが別のファイルシステム上にある場合、この機能が原因で X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックが増大します。また、パネルがリモートホスト上で表示される場合も、X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックが増大します。たとえば、Sun Ray サーバーでパネルを起動し、そのパネルを Sun Ray クライアント上で表示する場合です。

この機能を無効にする方法については、63 ページの「メニュー上のアイコンをオフにして CPU 使用率を減らす」を参照してください。

ワイヤフレームモードをオンにしてネットワークトラフィックを減らす

ウィンドウを表示するアプリケーションがリモートホストで実行されている場合は、ワイヤフレームモードを使用すると X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックが減少します。

ワイヤフレームモードの詳細については、63 ページの「ワイヤフレームモードをオンにして CPU 使用率を減らす」を参照してください。

色の使用を減らして表示品質を改善

多くの現代のコンピュータシステムが 24 ビット色 (16,777,216 色) をサポートします。しかし、多くのユーザーが今だ 8 ビット色 (256 色) をサポートするシステムを使用しています。

デスクトップ環境は、*websafe* カラーパレットを使用します。このパレットは 216 色の汎用パレットであり、8 ビット色をサポートするシステム上での色の使用を最適化するように設計されています。一方、デスクトップ環境の一部の視覚構成要素は、24 ビット色をサポートするシステム用に設計されています。

以下に示す表示上の問題が、8 ビットをサポートするシステムで発生する可能性があります。

- ウィンドウ、アイコン、および背景イメージの粒子が粗くなる可能性があります。多くのテーマ、背景イメージ、およびアイコンは、*websafe* カラーパレットにはない色を使用します。パレットにない色は、最も近い色またはディザ処理した近似色に入れ替わります。このように色の入れ替えが原因で、粒子が粗くなります。
- *websafe* カラーパレットを使用しないアプリケーションは、利用可能な色が少なくなります。このためカラーエラーが発生する可能性があります。一部の色が、アプリケーションのユーザーインターフェイス上に現れない可能性があります。また、アプリケーションが色を割り当てることができない場合に、一部のアプリケーションで障害が発生する可能性があります。
- *websafe* カラーパレットを使用するアプリケーションと、このカラーパレットを使用しないアプリケーションとの間で切り替えを行うと、色の点滅が発生する場合があります。*websafe* カラーパレットを使用しないアプリケーションは、カスタムカラーマップを使用している可能性があります。カスタムカラーマップが使用されている場合、ほかの視覚構成要素が色を失い、見えなくなる可能性があります。

この節では、8 ビット色をサポートするシステムで、デスクトップ環境の外観を最適化する方法について説明します。

websafe カラーパレットを使用するテーマを使用する

一部のウィンドウフレームテーマは、websafe カラーパレット内の色を使用します。Bright と Esco は、websafe カラーパレットを使用します。Bright と Esco の場合、8 ビット色のディスプレイで表示されるほかのテーマのように粒子が粗くなることはありません。8 ビットのビジュアルモードでは、Bright または Esco を使用すると色がきれいに表示されます。

テーマの変更方法については、62 ページの「CPU リソースをあまり必要としないテーマを使用する」を参照してください。

メニュー上のアイコンをオフにして色の使用を減らす

メニュー上のいくつかの項目は、その項目の横にアイコンが表示されます。アイコンに websafe カラーパレットにはない色が含まれている場合、この機能によって使用される色の数が増えます。

この機能を無効にする方法については、63 ページの「メニュー上のアイコンをオフにして CPU 使用率を減らす」を参照してください。

スプラッシュ画面をオフにして色の使用を減らす

スプラッシュ画面をオフにすると、デスクトップ環境およびアプリケーションが利用できる色が増えます。

スプラッシュ画面をオフにする方法については、63 ページの「スプラッシュ画面をオフにして CPU 使用率を減らす」を参照してください。

デスクトップ背景に単一色を使用して色の使用を減らす

デスクトップ背景には単一色を使用します。単一色の使用により、デスクトップ環境が使用する色の数が減ります。

デスクトップ背景に単一色をセットするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type string --set  
/desktop/gnome/background/picture_options none  
  
# gconftool-2 --type string --set  
/desktop/gnome/background/color_shading_type solid
```

```
# gconftool-2 --type string --set  
/desktop/gnome/background/primary_color \#hexadecimal_color
```

あるいは、「アプリケーション」→「デスクトップ設定」→「背景」を選択して、デスクトップ背景に単一色を選びます。

付録 A

隠しディレクトリ

この付録では、GNOME デスクトップがユーザーのホームディレクトリに追加する隠しディレクトリについて説明します。

「隠しディレクトリ」とは、ディレクトリ名の先頭にピリオド (.) が付くディレクトリのことです。表 A-1 は、GNOME デスクトップがユーザーのホームディレクトリに追加する隠しディレクトリを示しています。

表 A-1 ユーザーのホームディレクトリ内の隠しディレクトリ

ディレクトリ	説明
<code>.esd_auth</code>	GNOME サウンドデーモン用の認証クッキーが含まれています。GNOME サウンドデーモンは、ESD (Enlightened Sound Daemon) です
<code>.gconf</code>	ユーザーの GConf 構成ソースが含まれています。ユーザーが設定をセットすると、新しい設定情報がこの場所に追加されます
<code>.gconfd</code>	以下の GConf デーモンの詳細が含まれています <ul style="list-style-type: none">■ 構成情報■ IOR (Interoperable Object Reference) によって参照されるオブジェクトのロック情報■ IOR によって参照されるオブジェクトの状態情報
<code>.gnome</code>	GConf リポジトリには格納されないユーザー固有のアプリケーションデータが含まれています。たとえば、このディレクトリには MIME タイプ情報やユーザーのセッション情報が含まれています

表 A-1 ユーザーのホームディレクトリ内の隠しディレクトリ (続き)

ディレクトリ	説明
.gnome-desktop	<p>Nautilus ファイルマネージャには、ファイルマネージャを使用してデスクトップを管理できる設定があります。オプションを選択した場合、デスクトップ上にあるオブジェクトが、このディレクトリに含まれます。このディレクトリは以下を含みます</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ デスクトップ上のオブジェクト (たとえば、「ホーム」オブジェクト、「ごみ箱」オブジェクト、およびほかのランチャー)。オブジェクトはデスクトップエントリファイルとしてディレクトリ上に表示されます。たとえば、starthere.desktop ファイルには、「ここからスタート」ロケーションへのリンクが含まれます ■ マウントされているリムーバブルメディアのボリューム
.gnome2	<p>ファイルマネージャには、.gnome-desktop の代わりにホームディレクトリをデスクトップディレクトリとして使用できるようにする設定があります。このオプションを選択した場合、ホームディレクトリの内容が、デスクトップオブジェクトとして表示されます</p> <p>GConf リポジトリには格納されないユーザー固有のアプリケーションデータが含まれています。たとえば、このディレクトリは以下のデータを含みます</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーボードショートカット情報 ■ ウィンドウの場所に関する情報 ■ パネルランチャー用のデスクトップエントリファイル <p>このディレクトリは、ユーザー固有のメタデータも含みます。ユーザーがメタデータを変更した場合、詳細がここに格納されます</p>
.gnome2-private	<p>このディレクトリは使用されていません。このマニュアルの発行時点では、このディレクトリに機能はありません</p>
.metacity	<p>Metacity ウィンドウマネージャ用のセッションデータが含まれています</p>

表 A-1 ユーザーのホームディレクトリ内の隠しディレクトリ (続き)

ディレクトリ	説明
.nautilus	<p>ユーザー固有のファイルマネージャデータが含まれています。たとえば、このディレクトリは次のデータを含みます</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザーが作業するディレクトリ用のメタデータ ■ ユーザーが追加する Nautilus テーマ ■ ユーザーが追加する Nautilus エンブレム ■ Nautilus デスクトップイメージ
.themes	<p>ユーザーが追加するデスクトップテーマおよびウィンドウフレームテーマが含まれています。テーマの設定ツールでテーマを追加できます</p>
.thumbnails	<p>イメージサムネイルが含まれています。イメージサムネイルは、ファイルマネージャで使用されます。ファイルマネージャには、サムネイルイメージの生成の停止を選択できる設定があります</p>
.xscreensaver	<p>スクリーンセーバー構成データとスクリーンセーバー設定データが含まれています</p>

用語集

.desktop ファイル	デスクトップエントリファイルを参照
.directory ファイル	ディレクトリエントリファイルを参照
GConf 構成ソース	GConf リポジトリ内の保存場所。例: <code>xml:readonly:/etc/gconf/gconf.xml.defaults</code> .
GConf スキーマ	スキーマキーとスキーマオブジェクトの総称
GConf スキーマオブジェクト	設定キーに関する情報を含む構成ソース内の要素。スキーマオブジェクトは、設定キーのデフォルト値、設定キーの説明などの情報を持つ
GConf スキーマキー	設定キーのスキーマオブジェクトを格納するキー。たとえば、 <code>/schemas/desktop/gnome/interface/font_name</code> は、 <code>/desktop/gnome/interface/font_name</code> 設定キーのスキーマキーである
GConf スキーマ定義ファイル	GConf スキーマ定義ファイルには、特定のアプリケーションのキーが含まれており、それらのキーの特性を定義する。GConf スキーマは、スキーマ定義ファイルから生成される。スキーマ定義ファイルには、 <code>.schemas</code> 拡張子が付く
GConf 設定キー	アプリケーション設定に対応する GConf リポジトリ内の要素。たとえば、 <code>/apps/gnome-session/options/show_splash_screen</code> 設定キーは、セッション設定ツールの「ログオン時にスプラッシュ画面を表示する」オプションに対応する
GConf パスファイル	GConf 構成ソースとソースの検索順序がリストされたファイル
IOR (Interoperable Object Reference)	IOR は、CORBA オブジェクトに対する文字列参照。IOR は、オブジェクトを制御するためにメッセージを送信できるホスト名とポートをエンコードする。IOR は、オブジェクトを識別するオブジェクトキーを持っている
MIME	Multipurpose Internet Mail Extension の略

MIME キーファイル	MIME キーファイルは、ユーザーインターフェイスで使用される MIME タイプに関する情報を提供する。たとえば、MIME キーファイルは、その MIME タイプのファイルを表すアイコンを指定する。MIME キーファイルには、 <code>.keys</code> ファイル拡張子が付く
MIME 情報ファイル	MIME 情報ファイルは、MIME タイプとファイル拡張子およびファイル名パターンを関連付けるテキストファイル。MIME 情報ファイルには、 <code>.mime</code> ファイル拡張子が付く
MIME タイプ	MIME タイプは、ファイルの形式を識別する。アプリケーションは、MIME タイプによってファイルを読み取ることができる。たとえば、電子メールアプリケーションの場合、MIME タイプを使用して電子メールに添付されているファイルのタイプを検知する
MIME タイプレジストリ	MIME タイプレジストリは、デスクトップ環境の MIME タイプを登録するテキストファイルが含まれる場所。GNOME デスクトップの MIME タイプレジストリの場所は、以下のとおり <code>/usr/gnome/share/mime-info</code>
URI (Uniform Resource Identifier)	URI (Uniform Resource Identifier) は、ファイルシステム内または Web 上の特定の場所を識別する文字列。たとえば、Web ページのアドレスは URI である
vfolder	システム上の物理的な場所に存在する項目の仮想表現。たとえば、 <code>vfolder</code> は、複数のディレクトリの内容を表すことができる。メニューにおいて <code>vfolder</code> は、物理的には複数のディレクトリに置かれている項目のメニュー上の表現になる
vfolder 情報ファイル	XML 形式の <code>vfolder</code> の説明ファイル。 <code>vfolder</code> 情報ファイルは、メニューの構造を指定する
websafe カラーパレット	<code>websafe</code> カラーパレットは、汎用の 216 色のパレット。 <code>websafe</code> カラーパレットは、8 ビット色をサポートするシステムにおける色の使用を最適化するように設計されている。 <code>websafe</code> カラーパレットは、「Netscape カラーパレット」または「Netscape カラーキューブ」とも呼ぶ
アプリケーションレジストリ	アプリケーションレジストリとは、アプリケーションを登録するテキストファイルが含まれる場所。GNOME デスクトップのアプリケーションレジストリの場所は、以下のとおり <code>/usr/share/gnome/application-registry</code>
スクリーンセーバー	スクリーンセーバーは、画面が使用されていないときに、画面上のイメージを置き換えるアプリケーションのこと。GNOME デスクトップ用のスクリーンセーバーアプリケーションは、 <code>XScreenSaver</code>
スクリーンセーバーディスプレイ	スクリーンセーバーディスプレイは、画面が使用されていないときに、画面上にイメージを表示するアプリケーションのこと
ディレクトリエントリファイル	メニューについての情報を提供するデータファイル。ディレクトリエントリファイルは、メニューの名前、メニューのツールチップ、メ

	ニューを表すアイコンなどの詳細を指定する。ディレクトリエントリファイルには、 <code>.directory</code> ファイル拡張子が付く
デスクトップエントリファイル	メニュー内の項目についての情報を提供するデータファイル。デスクトップエントリファイルは、名前、実行するコマンド、アイコンなどの項目の詳細を指定する。デスクトップエントリファイルには、 <code>.desktop</code> ファイル拡張子が付く
パターンマスク	パターンマスクは、ファイルタイプ検索ツール内の一連の 16 進数文字。パターンマスクは、ファイル内でパターンを検索するときに、パターン中で無視するビットを識別する
ファイルタイプ検索ツール	ファイルタイプ検索ツールは、ファイル内で検索するパターンを指定する。ファイルタイプ検索ツールは、MIME タイプとパターンを関連付ける。パターンとの一致が見つかったら、そのパターンに関連付けられている MIME タイプがファイルの MIME タイプになる

索引

C

CPU 使用率, 減らす, 61

D

.desktop ファイル, デスクトップエントリ
ファイルを参照

.directory ファイル, ディレクトリエントリ
ファイルを参照

G

GConf

HTTP プロキシの設定, 20

印刷マネージャの設定, 20

概要, 11

キーボードアクセシビリティの設定, 21

キーボードショートカットの設定, 21

グローバルパネルの設定, 22

構成ソース, 13

コマンドラインツール, 16

スキーマ, 14

スキーマオブジェクト, 14

スキーマキー, 14

スキーマ定義ファイル

概要, 15

パネルおよびパネルオブジェクト, 23

スプラッシュイメージの設定, 28

設定値, 19

デーモン, 15

デスクトップ背景の設定, 28

GConf (続き)

デフォルト設定値の復元, 29

パネルオブジェクトの環境の設定, 23

パネルの設定の個別に設定, 23

フォントの設定, 27

リポジトリ, 12

ワークスペースの数の設定, 20

gconfd, GConf デーモンを参照

gconftool-2, GConf コマンドラインツールを参
照

H

HTTP プロキシ, GConf による設定, 20

M

mediaLib ライブラリの CPU 使用率, 67

MIME タイプ

MIME キーファイル, 49

MIME 情報ファイル, 48

MIME タイプレジストリ, 48

アプリケーションの追加, 52

アプリケーションの登録, 50

概要, 45

検出, 46

パターンマスク, 47

ファイルタイプ検索ツール, 46

MIME タイプの検出, 46

N

Nautilus, ファイルマネージャを参照

P

Print Manager, GConf による設定, 20

V

vfolder, 32
vfolder 情報ファイル, 32

X

XScreenSaver, スクリーンセーバーを参照
X ウィンドウシステムのネットワークトラ
フィック、減らす, 68

あ

アイコン、メニュー上の、メニューアイコンを
参照
アプリケーション
追加, 52
レジストリ, 50

い

色の使用、減らす, 69

う

ウィンドウフレームテーマ、テーマを参照

か

隠しディレクトリ, 73

き

キーボード
GConf によるショートカットの設定, 21
GConf を使ったアクセシビリティの設定, 21

す

スキーマ
スキーマオブジェクト, 14
スキーマキー, 14
スキーマ定義ファイル
概要, 15
パネルおよびパネルオブジェクト, 23
説明, 14
スクリーンセーバー
概要, 53
スクリーンセーバーディスプレイの変更, 55
設定, 53
スプラッシュ画面
CPU 使用率, 63
イメージ、GConf による設定, 28
色の使用, 70
オフにする, 63

せ

セッション
概要, 57
デフォルトの設定, 58
ログインスクリプト, 58
設定値
GConf による設定, 19
GConf によるデフォルトへの復元, 29

て

* ディレクトリ、隠しディレクトリを参照
ディレクトリエントリファイル, 35
テーマ
CPU 使用率, 62
アイコンのインストール, 43
色の使用, 70
ウィンドウフレームテーマのインストー
ル, 42
概要, 41

テーマ (続き)
 カスタムデスクトップの作成, 44
 デスクトップテーマのインストール, 42
 ネットワークトラフィック, 68
 変更する, 62
デスクトップ、フォントの設定、GConf による
 設定, 28
デスクトップエントリファイル, 34
デスクトップテーマ、テーマを参照
デスクトップ背景
 オフにする, 67
 設定、GConf による設定, 28
 単一色, 70

ね
ネットワークトラフィック、減らす, 68

は
パターンマスク, 47
パネル
 GConf によるグローバルパネル環境の設
 定, 22
 アニメーションをオフにする, 64
 設定、個別、GConf による設定, 23
パフォーマンス、改善、概要, 61
パフォーマンスの改善、CPU 使用率を減ら
 す, 61

ひ
表示品質の改善, 69

ふ
ファイルタイプ検索ツール, 46
ファイル抽象レイヤー、メニュー, 32
ファイルマネージャ
 サイド区画をオフにする, 66
 ツールバー、オフにする, 66
 デスクトップ、オフにする, 67
 パフォーマンス設定の変更, 64
 メニューの追加, 36

ファイルマネージャ (続き)
 ロケーションバー、オフにする, 67
 フォント、GConf による設定, 27

へ
減らす
 CPU 使用率, 61
 X ウィンドウシステムのネットワークトラ
 フィック, 68
 色の使用, 69

め
メニュー
 vfolder, 32
 vfolder 情報ファイル, 32
 概要, 31
 項目の追加, 37
 設定の編集, 38
 ファイル抽象レイヤー, 32
 ファイルマネージャによる追加, 36
 編集, 36
 メニュー項目の削除, 38
 メニュー項目の編集, 38
 メニューファイルを使用して追加, 37
 ユーザーが変更できないメニューを設定, 39
メニューアイコン
 CPU 使用率, 63
 色の使用, 70
 オフにする, 63
 ネットワークトラフィック, 68

わ
ワークスペース、GConf による数の設定, 20
ワイヤフレームモード
 CPU 使用率, 63
 オンにする, 63
 ネットワークトラフィック, 69

